20th ANNIVERSARY

社会福祉法人 調布を耕す会 しごと場大好き

20周年記念誌

タイムカードを打刻して
貴重品を預ける所から
1日が始まります。

メンバーの司会進行で、
その日の予定を確認します。

開所20年

会員並びに関係各位の皆様、日頃のご支援、ご協力に心より感謝とお礼を申し上げます。

調布を耕す会「しごと場 大好き」も開所20年に至りました。

心身障害者通所授産事業・定員12名・都内在住15才以上の幼い時から障碍を持つ方を対象とし、調布市上石原での開所は1993年、翌年に移送サービスを併設、電動リフト付きワゴン車を活用、移動困難な障碍者や高齢者対象事業も運営されておりました。

私事で恐縮ですが、長男の支援学校高等部卒業に際し、子供の今後の生活をどの様に対処しようか苦慮しておる時に紹介を受けたのが調布を耕す会「しごと場大好き」でした。

作業所創設には初代理事長の桜井義明様の福祉に対する理解ある考えとご尽力、所長亀田良一郎様と若いコンビのお二人の息の合った考えや思いの一致で実現されたと考えております。

＜基本方針の柱は４つ＞ 今も変わらぬ精神で運営しております。

① 通ってくるみんなで作り上げる。

② 毎日が楽しい場にする。

③ 一人ひとりの個性が活きる創造的活動をする。

④ 地域に根ざした活動をする。

工賃設定は当初からあって、年令給制、他にボーナス年２回、1998年からは自主製品販売状況に応じた特別ボーナス年２回が用意されており、凄いなーと、感心したあの日を忘れることは今も無いのです。

形にこだわらない「場」や「しくみ」創りを、目指して発足した調布を耕す会に於ける創造的活動は、和陶芸・調理実習・畑仕事・組紐。組紐は深見先生の発足時より現在も変わらぬご指導援助を頂いております。

又、地域に根ざした活動では牛乳パック回収・地域バザーと清掃、加えて市民と直に接する経験を積むことで、自立と地域福祉の向上を目指した第２作業所は、設立準備債の発行協賛に関係各位の皆様方のご協力を頂き「Cafe 大好き」としてオープン致しました、時期は1996年5月でした。（現在地での開店）時間の経過は、初心や想いを忘れさせます、開所 20 年を迎えるに当たり、想いは各人様々かと思いますが今一度再考してみたいと思った次第です。

当初から耕す会の目標は法人化、条件確保の資金準備に着手、それ以前から、母親主導に依る＜こぶしの会＞では、アートフラワーの製作販売を実行、土地探しや検討会と題し親父も参加、会議後必ず居酒屋での割勘による「おやじの会」が催され、飲みながらに将来構想や夢を語り、具現化の道を模索した日、色々な意見や考えが多々ありました、懐かしい思い出で一杯です。

遠くに思えていた法人化の道でしたが、一人の「おやじメンバー」の方のご好意の申し出で突然に道が開かれました。そして、幸運にも年度締切に間に合い法人認可される事になったのです、確か 2007 年の事です。

２代目理事長安藤保幸様は大忙し、近隣説明会・競争入札・地鎮祭・本体建築竣工・認可・グループホーム設立、小さかった輪は、お蔭様で職員もメンバーの方々も増え大きな輪と成りました調布を耕す会。これからは関係者全員の皆様方と協働による新しい未来を、共に考え、創り出したいと思う次第です、此れからが勝負です、篤いご指導を関係各位の皆様方、御一人御一人に心より重ねてお願い致しますと共に、更なるご援助宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人 調布を耕す会理事長
齋藤 豊

働きはじめると
運動不足になりがちです。
朝の体操、
ストレッチも大切な時間です。

地域との結びつきは日常の活動の積み重ねです。上石原の時代から作業開始前に施設前と近隣の掃除を行います。

自分で使った物は自分で洗う。物をきれいに大切に使う。
当たり前の事を淡々と積み重ねる事が大事だと考えています。

床、トイレ、階段他、作業終了後に
毎日自分たちで掃除をして大切に使っています。

市長挨拶

社会福祉法人調布を耕す会が設立20周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

耕す会が創設された20年前は特別支援学校等の卒業生の活動の場が十分に整備されてなく、様々な民間の小規模作業所が立ち上げられた時期であり、まさに障害者の日中活動の草創期でした。

そのような中、わが子の豊かな成長を願うご家族と職員の皆様の協働によって、上石原にあった空き事務所を改修され作業所「しごと場大好き」が誕生したと伺っております。設立には大変なご苦労があったことと拝察いたしますが、その後も組紐や牛乳パック回収、バザー、コンサート等の活動を通して実績を積み上げ、その名のとおり、みんなが大好きなしごと場として利用者の皆様に愛されてまいりました。こうした取り組みは、事業所運営にとどまらず様々な地域活動へと発展され、障害者がしごとをとおして地域の方と交流する場である「カフェ大好き」の設置等、市民に開かれた先駆的な事業として裾野を広げられました。また、平成20年には事業所を布田へ移し、障害者自立支援法に基づく施設に移行されました。

地域社会に溶け込む活動を続ける調布を耕す会は、市内における障害者福祉の先駆けとして確固たる地位を築いてまいりました。ここに記念すべき２０周年を迎えられるにあたり、今後とも調布を耕す会のご活動が地域に根差し、地域を耕し、新たな風を起こされることをご期待申し上げます。

結びに、調布を耕す会の今後益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。

調布市長
長友 貴樹

次の10年に向かって

「調布を耕す会」「しごと場大好き」はお陰様で発足して共に20年を迎える事が出来ました。この間、ご支援いただきました支える会のみなさま、調布市、東京都他関係各機関のみなさま誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

1992年何一つ無い所からのスタートでしたが、作業所の開設、喫茶店のオープンがあり、法人化の後に事業所が建ちグループホームが開所しました。ここに至ったその大きな原動力は、「ともに創って行こう」という職員、家族、協力者のみなさんとの結束であり、メンバー一人ひとりの笑顔と笑い声でした。それは、20年経った今も変わらぬ私たちの財産です。障碍のある彼らが、「地域の中で生き生きとゆたかに愉快にゆうゆうと」暮らせる「場」や「しくみ」を作る事を目標に掲げてここまでやって来ました。振り返ると、メンバーみんながとにかく毎日楽しく通ってくる場でありたいという思いで、日々の活動に精一杯に取り組んで来ました。障碍の重さや従来の作業所の形に囚われず、自由な発想で柔軟に活動的な取り組みをする事は出来ていたような気がしますが、反面、組織的には不充分な点も多く、目標達成の為の計画的な事業展開が課題でした。

法人化、事業所建設を経て次第に形が整い仲間が増える中で、障碍の多様性、職員の専門性の向上、事務量の増加等新たな課題が見える一方で、地域での根付き、社会的認知度の向上等、次の展開への可能性も拡がっている事を感じます。

今後は、彼らがゆたかに暮らすための社会資源を、その人にあったものが選択できるように、一つでも多く、少しでも早く整えていきたいと考えています。その為に、中長期計画を軸にして、「ともに創って行こう」という思いを忘れずに、次の10年へ向けて、計画的な事業展開を進めていきます。そして何より、関わる人たちが、ここに通って良かった、ここで働いて良かったと思えるように、個性を発揮してみんなが輝ける「場」を目指して、現状に止まらず歩みを進めてまいりたいと思います。みなさまには、どうか引き続きのご支援、ご協力を心からお願い致します。

終わりになりましたが、これまでの20年を支えて頂きました桜井初代理事長、安藤元理事長、齋藤理事長、（故）小山理事、（故）原理事にはそのご指導、ご協力に改めて心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

しごと場大好き
所長　亀田 良一郎

メンバーの思う事

20周年という事で、初期の頃から通われているメンバーのみなさんに感想等をうかがいました。

20年間を振り返って

そうだね〜、わたしが入ってもう20年だから…がんばったかな。
大好きが出来てから、20年経ったから、ここが畑だったから。
畑がすごかったとき。畑でコケたの。昔は立ってたから。

畑で大根作った。

開所式ってなんだろうって思ったの。
通所証明書をマンネンさんにもらって、うれしかったの。
あとカフェに行って…。カフェをオープンさせたのがきっかけだった。

高校卒業する時、耳と、中耳炎、喘息一緒にやっちゃって、
病み上がりの状態で初お給料もらった。

組みひもをやった。僕は畑で土を掘る。
トウモロコシやった。トウモロコシ食べてました。

古い建物だった。
古い建物あったけど無くなったんだよね。
僕は歩いて通ってた。入口があって、駐車場があって…

今まで楽しかった事

バザーだね。
調布駅のとこでやってた。
夏祭りの太鼓もやってた。

畑が楽しかった。自分で好きな種をまいて、
どんな風に芽が出てくるか楽しみだった。
きゅうりとか、じゃがいもとか。またやってみたい。

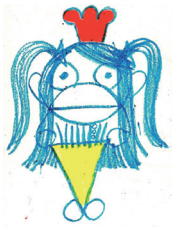
太鼓、バザー。

太鼓もありましたよね、
夏まつりでやったよね、毎月やってたよね。

餅つき会。きな粉が入ってます。
お花見で桜が満開だった。
カフェ大好きで食器を洗っています。

新しいメンバーさんが、
誰が入ってくるのか毎年楽しみだった。

クリスマス会。



大好きで牛乳パックの回収やったこと。定期清掃。
歩いていく。行事は飲み会が楽しかった。
カラオケやったり〜、ジュースを飲んだり〜、食べたり〜。

新しい大好きは

電動車いすで来れるようになった。
グループホームから来るようになった。良いと思う。
緑が気持ちいいし、自分で来れるし、自分が気持ちいい。
工事があってここに出来て、大分綺麗になったんだよね、
一つにまとまって綺麗になった。

しごと場大好きを形作るもの
それは、建物だったり、道具だったり、
据え付けの家具だったり、作品だったりもする、
でも、結局は人なんです。

職員の思うこと

同期職員対談

「今までを振り返って」

内田：頭からはいなかったので、18 年という感じになる。西調布時代の「家」のような作業所が、今となっては懐かしい。あそこを引き払うとき、鉄くず (下駄箱など) を多摩川沿いの商店に持ち込んで、お金に換えて処分した。今、現役で頑張っている物もあるが、ここ (布田の施設) に来るときに処分した物も感慨深かった。

8～10 数人の人数でこじんまりとしていて、ちょっとお昼とかに出かけたりして、自由度があって懐かしく思い出される。

後藤：天気がいいから関東村でお昼食べよう、雪が降ったから関東村に行って雪合戦しようなど、フットワークが軽かった。なかなか流れないトイレとか…。トイレ渋滞があった。

一番最初の面接で施設の代表の方がいらっしゃると事前に聞いていて、内田さんを代表の人だと勘違いした。内田さんとの出会いはそこから始まった。

本当にこじんまりとしていて、風の吹くままにというか、その日の天気で出かけたのが面白かった。

何でも手作りで、開所式とかクリスマス会とか…、それが今でもつながっているのがうれしい。

昔の牛乳パック回収は今よりも量が多くて、車にぎゅうぎゅう詰めで座る場所がないのが当たり前だった。足元に牛乳パックの入った袋を押し込んで、膝の上にも抱えて車に乗っていた。クリーンセンターに先に到着して待っていると、後から来た車が牛乳パックでいっぱいで、人が見えない状態。ドアが開くとそこからぞろぞろと人が下りてきた。

西調布の施設は本当に狭かったので、バザーの前はバザー品に囲まれて作業していた。値段付けは職員がやっていて、バザーの前日になっても終わらなくて、ファミリーに連絡網を回してお母さんたちに手伝ってもらった。新しい施設が出来て、今は作業室がある、事務室がある、相談室がある、作業室と食事をする部屋が別にある。以前は午前中に作業していたものは全て片付けてからでないと食事が出来なかった。引越しした翌日に落成式なんて今じゃとても考えられない…

「楽しかったこと、うれしかったこと、面白かったこと」

後藤：ディズニーランドに行ったこと。夜のエレクトリカルパレードだけを見に行ったり…。

内田：カフェが出来たことはうれしかった。大好きに入ってすぐ準備の年で、1 年間準備して、足で物件探したり、パン屋さん探したり、いろいろ…。

後藤：自転車で市内の不動産屋さんを回って、一軒一軒メモをしていた。

内田：モルゲンさん、飛行島さんと出会えて、みんなの夢が形になることに関われたのはうれしかった。ここ (布田の施設) が出来たことも甲乙つけがたい。

後藤:ここが出来た時も、みんなで作り上げたということがうれしかった。

内田:面白かったのは、クリスマス会の出し物。胴体切断のショーをやった。それっぽく出来ていないのにウケた。わりと昔はメンバー、職員誰ということなく出し物に関わることが出来た。

後藤：劇とか衣装とか、結構凝っていた。かっちゃんが金八先生が好きで、劇でやることになり、カツラを作った。ヘルメット状の物に毛糸を一本一本くっつける作業を夜な夜なやっていた。

電話がかかってくると、狭い部屋なので周りの音がうるさくて電話口の声が聞こえないことがあったので、みんなに「静かに～!」と言っていた。

内田：ファッションショーでピカイチだったのが渡辺和子さん。服はデザイナーさんが作って、たいていはメンバーが着る。

後藤：作業所の自主製品とコラボしたファッションショー。うちは組みひもだとか。

内田：お母さんもモデルに、という時があって、和子さんが出た。驚きだった。

後藤：ここって職員がお子さんと一緒に行事に参加しているのがいい。亀田さんの息子さんの航平くんが、家で鉛筆の両端を鉛筆削りで削っていて、それがマコさんの真似だというエピソードが面白かった。

「仕事でやりがいを感じるとき」

内田：人間相手ということで日々違っていて、そこに、自分なりにどういう風に関わっていくかという面白さがある。どういう風に関われればいいのかなって考えるのが難しいんだけど、やりがいがある。

後藤：大好きはメンバーがとにかく明るい。みんながお互いを気にかけていて、仲間意識がある。普通の作業所と違って、コーヒーを淹れるのも勉強できるし、コンサートの運営も勉強できる。いろいろな経験をさせてもらえるのがラッキーだな～と思う。亀田さんとかトップの人たちが、みんなでやっていこうというのがあって、それをやらせてもらえるのがうれしい。あとは、メンバーが仲良くしてくれるのがうれしい。メンバーに、昔からのあだ名の「ゴッチ」と呼んでもらえるのがうれしい。

「これからの大好き」

後藤：新しく作業所つくるのかな？

内田：期待したい。

後藤：21 年目に向けて何か作っていきたい。

内田：後藤さんがお子さんを授かったのがうれしかった！赤ちゃん産んでもがんばってください！

古参職員インタビュー

Q. 20年を振り返っていかがですか？
A. 年を取ったなぁ。20周年という実感が湧かない。イメージが湧かない。あと20年経ったら、どうなっているんだろう……
Q. 楽しかったことは？
A. しごと場の作業（陶芸、組みひも、牛乳パック）をしている時が楽しかった。牛乳パックの車中は景色を見ながらドライブの様で、ふと誰かが歌ったりする感じが好き。車に乗ったり、降りたりのテンポも良くて好きだった。
Q. 大変だったことは？
A. 難しい事をやっていないので、大変だとは思わない。好きな事をずっとやっている感じ。
Q. 調理・お菓子作りの楽しいところ、大変なところは？
A.「楽しいところ」
メンバーと一緒にお仕事しているのが楽しい。
「大変なところ」
『出来なかった』『変になった』というわけにいかないところ。
Q. 開所時のしごと場と今のしごと場で変わったところ、変わらないところは？
A.「変わったところ」
大きくなってせわしなくなった。昔はのんびりしていてお昼休みにお昼寝をしたり、天気が良ければ散歩や多摩川でお弁当を食べたりと、臨機応変に楽しんでいた。
「変わらないところ」
雰囲気。人を排除しない。誰に対しても居心地が良い所です。

若手職員座談会

今までの「大好き」とこれからの「大好き」

◆作業に関しては、今みたいに組みひもと陶芸と……ではなく、もっと幅広く充実した事がやりたいなぁと思います。メンバーさんひとりひとりに対して、こちらがあてはめるのではなく、この人にはこれが向いてるとか、本人が選べる作業があったらいいなぁと思います。あと、他の作業所がやっていないもの。バザーの様に、これは「大好き」にしかないでしょ！みたいな事がやりたいです。誇れるものがあったらいいですよね。職員も1週間毎日違う作業をやっていてもマンネリ化しちゃうことがあったりもします……。
◆以前、新しくやりたい事で意見を出し合った事がありました。その時はアイスに決まったんですが、私は石鹸作りがしたかったんです。でも暗黙のルールで他の作業所とかぶっちゃうのはダメだし、意外と製法が難しいんです。その時は石鹸とか化粧品の作り方の本を買っていました。考えるのは楽しいですね。
昔は色々やっていましたよね。ドレッシング作りとか、メンバーさんのマッサージ屋さんとか。マッサージは1時間数百円ならリーズナブルでいいんじゃない？とか話して。
実際やり始めると大変なんですけどね。アイスを始めたばかりの頃も大変でした。Hさんすみません！みたいな（笑）
◆入社して1年目の時にYさんと調布の公園で話し合った思い出があります。例えば自主製品をどうやって広めるか考えて、「居酒屋に売り込んだらいいんじゃないか」とか「小器や小皿を醤油さしにしてもらおうか」とかコーヒー1杯でとことん話し合いました。あの頃から今ある営業の話も少ししていました。
そんな熱い会話をしていたんですね……。
◆昔、宿泊訓練をやっていました。Hさんのお母さんの家の1室を借りて、泊まった事もあります。私は入社したばかりで不安だらけだったけど、GHみたいで結構楽しかったです。
◆GHでは生活リズムがだいたい決まっているので新しい事となると少し難しい気もします。それならば規模を大きくして、土日を使ってメンバーさんと交流を深めたい。でも皆さん土日は家に戻っちゃうんですよね。保護者を交えた食事会もやりたいです。世話人さんの作ったこんな物を食べてます。みたいな。
◆私はメンバーさんと行くスポーツ観戦が楽しいです。サッカーだったり、野球だったり。野球はお勧めです。（どこのファンですか？）最初は巨人で、広島に移ったんだけど、最近ヤクルトに移行しました（笑）
◆「大好き」で色々な体験ができますよね。生け花やフラダンスも楽しかったです。私は茶道がやりたいと思っているんです。着物も着れたりしたら、いいですよね。
◆私もずっとメイクがやりたくて、「やりたい。やりたい！」て言ってたらできました。思い続ければできますよ！
◆何かを始めるってすごく大変。その時の瞬発力が必要ですよね。
◆私は先のことを考えるより、今の人達と今の場所をどうしていこうかと考えてしまいます。今あるものを伸ばそうと。でも施設長は新しいものを作ろうと常に広い目で先を見ている。尊敬します。
みんなが同じ方向を向いていれば、何でもできる気がしてきました！

現在に至る経過

作業所を始める前に市へ相談に行った際、実績が無ければやらせるわけにはいかないと、条件を提示され立ち上げたのが調布を耕す会でした。以来公共施設を転々としながら毎週土曜日に実績作りの活動を重ね、「大好き」開設の道が開かれました。開所の際の祝辞では、所長が若すぎるが大丈夫かと心配されてのスタートでしたが、メンバー8名の少人数で若い集団は、明るくのびのびと和気あいあいに日々楽しく過ごせていたように思います。1994年には「移送サービス事業」がスタートし、1996年にはメンバーの増加への対処と地域との接点を求めて、市民債券のご協力を得ながら「カフェ大好き」がオープンする等、順調に歩んでいました。

しかし、任意団体の運営による無認可作業所では、当然財政的には厳しく、慢性的な資金不足に苦慮する毎日で、状況の改善を目指して、会員のみなさんや家族、職員、周囲の協力者が一体となって、フル回転でバザー等に取り組んで資金を捻出する自転車操業でした。そうした状況を変える為には、法人化は必ず必要なステップと考えられていましたが、大きな目標であって、現実的には実現が難しい状況でした。

大きく事態が動いたのは2000年でした。社会福祉法の一部改正があり、一億円以上必要だった資産要件が、1千万円の資産を持って小規模通所授産を運営すれば法人化出来る事となりました。翌年、法人設立準備会が発足し、法人化へ向けて熱い議論が繰り返され、法人化募金活動が始まりました。2002年、沢山の方のご協力で募金は目標の1500万円に到達し、法人化の準備が整いました。耕す会発足10年目の事でした。

法人化を前に、それまでの思いと10年の経験から綱領、職員行動規範は作られ、2003年11月19日「社会福祉法人調布を耕す会」が設立されました。同時に小規模通所授産としてスタートした「しごと場大好き」でしたが、3年を過ぎた頃、大家さんのご都合で移転を求められる事となり、施設建設へ向かう事となりました。

施設建設のプロジェクトを立ち上げ、議論を重ねて会の総意で計画はスタートし、行政との打合せも進んでいましたが、肝心の土地が見つかりませんでした。様々な候補地を見に行っては、環境、値段、交通事情、面積等どうしても条件に合うものが見つからず、思い余ってコネクションも無くいきなり土地の所有者を訪ね、門前払いを食う始末でした。そんな状況から、行政への申請時期に間に合わないと諦めかけていた時でした。原武利さん（故人）から、状況を見かねて低額で土地を提供頂けるお話しを頂きました。思いがけない温情に触れ、震えが止まらなかったあの時の感動を忘れる事はありません。お陰で土地も決まり、2007年施設建設の募金活動が始まりました。メンバーご家族、関係者の篤いご支援で募金額は2300万円の目標に達し、施設建設が現実のものとなりました。2008年しごと場大好き竣工。メンバー25名職員9名のスタート。2011年には新施設からの徒歩圏内に、念願のグループホーム「DAISUKI」が設立されました。

2013年4月現在　メンバー38名、職員16名

社会福祉法人調布を耕す会 綱領

■基本理念

障碍のある人たちが「地域の中で生き生きと 豊かにゆかいにゆうゆうと」暮らすことのできる環境こそ、男女を問わずお年寄りから子どもまで、誰もが豊かな人生を享受しうる地域の在り方だと考えます。

■目的

障碍のある人たちが、住み慣れた地域で自己実現できる環境をつくり、かかわる全ての人が誇りの持てる、多様な福祉事業を行います。

■基本方針

●サービス提供

- 自ら考え、自ら決定し、自ら行動することを基本に、利用者主体のサービスを提供します。
- 一人ひとりのニードに応える、選択可能な多岐にわたるサービス提供を目指します。
- ライフステージに合わせた生活の質の向上を目指し、柔軟で幅の広いサービスを提供します。

●職員行動規範

- 利用者の基本的人権を尊重し、誠実、安心、安全な対応を心がけます。
- 利用者の個性、意志を尊重し、あるがままを受け入れます。
- 利用者の自己実現を目指し、常に内なる力を引き出す視点を持って接します。

●経営（運営）

- 透明性のある健全な経営を行ないます。
- 地域に開かれた信頼される法人を目指します。
- かかわる全ての人が誇りの持てる運営を目指します。
- 既成概念にとらわれない、自由な発想を持って公的補助に頼らない独立した経営を目指します。

目次

開所20年 3
市長挨拶 6
次の10年に向かって 7
メンバーの思う事 8
職員の思うこと 10〜11
現在に至る経過 12

日常の風景 2・4・5・9

あゆみ・組織図の変遷・相関図 14〜19
あゆみ　組織図の変遷　将来構想図（社会相関図）

作業 20〜25
組紐　陶芸　牛乳パック・公園清掃　メール交換・ポスティング
ジェラート・菓子製造　調理（仕込み）

生活支援 26〜27
リハビリ・社会体験活動　送迎

行事 28〜35
夏合宿　冬合宿　クリスマス　SEASONS EVENT
大好き市

DATA 36
しごと場大好き授産データー　しごと場大好き福祉事業データー

グループホームDAISUKI 37〜39
日常　メンバーの夢　世話人さんからのメッセージ

Cafe 大好き 40〜45
大切にしている事　メニューの変遷　ギャラリー　声

会報 46
会報の変遷

地域貢献事業 47〜50
それはおしゃれなコンサート　餅つき会　花火観賞会　バザー

人・夢 51〜53
支える人　メンバーの夢

事業・施設概要 54〜55
事業施設概要　MAP

あゆみ 1992-1997

	耕す会・大好きの出来事	福祉の動き	世の中の動き
1992	●「調布を耕す会」発足 ●会報「耕す会」創刊 ●第１回夏合宿	●「DDA法（連邦障害者差別禁止法）」制定（オーストラリア） ●「老人・医療福祉改良計画（エーデル改革）」を実施（スウェーデン）	●バルセロナ五輪開催、岩崎恭子が史上最年少で金メダルを獲得 ●日本人初の宇宙飛行士毛利衛宇宙へ ●「のぞみ」運転開始
1993	●「しごと場大好き」開所 ●会報「大好き」創刊 ●第１回「大好き市」開催 ●第１回「それはおしゃれなコンサート」開催（東京マリンバトリオ） ●「こぶしの会」発足 ●第1回「おやじの会」 ●24時間テレビキャラバン納車	●「心身障害者対策基本法」を改正 ●「障害者基本法」制定	●皇太子、雅子妃結婚 ●サッカーＪリーグ開幕 ●サッカーW杯アジア最終予選「ドーハの悲劇」 ●EU発足
1994	●第1回「餅つき会」開催 ●電気窯設置 ●日本テレビ出演 ●移送サービス事業開始	●「障害者白書」発表 ●「高齢者・身体障害者が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（ハートビル法）」制定	●松本サリン事件発生 ●大江健三郎がノーベル文学賞を受賞 ●プレイステーション発売
1995	●第1回冬合宿 ●電気窯用自動焼成装置設置	●「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」成立 ●阪神淡路大震災、ボランティア元年	●1.17 阪神淡路大震災発生 ●地下鉄サリン事件発生 ●メジャーリーグで野茂英雄投手が新人王を獲得
1996	●「Cafe 大好き」オープン ●第1回主催バザー開催 ●公園清掃開始 ●フジテレビ出演	●「公営住宅法」改正	●病原性大腸菌「O-157」大流行 ●ペルー日本大使館公邸人質占拠事件
1997	●「調布を耕す会」読売「光と愛の事業団」福祉奨励賞受賞 ●バザープロジェクト発足	●「児童福祉法」改正 ●「介護保険法」成立	●消費税が３％から５％に引き上げ ●「神戸市須磨区連続児童殺傷事件（酒鬼薔薇事件）」発生 ●ダイアナ妃が事故死 ●「たまごっち」流行

1998-2003

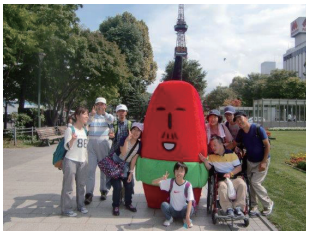
	耕す会・大好きの出来事	福祉の動き	世の中の動き
1998	●パルコ前展示会初出店 ●しごと場大好き5周年記念誌発行 ●リサイクル連絡会発足 ●特別ボーナス制度開始	●NPO法「特定非営利活動促進法」成立、施行 ●「精神薄弱」の用語を「知的障害」に改める法案を可決	●長野五輪開催、男子スキー・ジャンプ団体等日本「金」5個 ●パソコンiMAC（アップル）が発売
1999	●第1回「おしゃれなバザー」開催 ●還元焼成（陶芸）開始 ●コミュニケーションポート事業開始 ●調布市ごみカレンダー配布開始	●地域福祉権利擁護事業が始まる（都道府県社協）	●2000年問題が話題に ●東海村の核燃料工場で国内初の臨界事故 ●「だんご3兄弟」流行
2000	●掛け花花瓶250本受注生産 ●「Cafe 大好き」リニューアルオープン、カレー販売開始 ●移動サービス事業終了	●介護保険制度施行 ●新成年後見制度施行 ●社会福祉法一部改正	●シドニー五輪開催、高橋尚子陸上で女子初の金メダル ●カメラ付き携帯電話発売
2001	●法人設立準備会発足 ●「Cafe 大好き」ロゴ作成、週6日営業開始 ●メール交換受託開始	●国際ボランティア年 ●第1号介護保険料の全額徴収始まる。	●アメリカ同時多発テロ発生 ●小泉純一郎 首相内閣が始まる ●メジャーリーグでイチロー選手が首位打者・盗塁王・新人王・MVPを獲得
2002	●「調布を耕す会」10周年祝賀会開催 ●法人化募金目標額1,500万円到達	●「身体障害者補助犬法」改正	●日本人拉致被害者5人が北朝鮮から24年ぶりに帰国 ●サッカーW杯日韓共同開催
2003	●「社会福祉法人調布を耕す会」設立 ●小規模通所授産施設「しごと場大好き」開始 ●「調布を耕す会を支える会」発足	●障害者支援費制度施行 ●「職業安定法」改正	●宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞長編アニメ映画賞を受賞 ●イラク戦争開戦

あゆみ 2004-2009

	耕す会・大好きの出来事	福祉の動き	世の中の動き
2004	●会報「耕す会」「大好き」合体、両面印刷になる。 ●調布FM出演 ●「グループホーム設立検討委員会」発足	●「障害者基本法」一部改正	●新潟県中越地震発生 ●鳥インフルエンザ発生 ●「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生
2005	●新「大好き号」納車 ●「Cafe 大好き」リニューアルオープン	●「発達障害者支援法」成立 ●「障害者自立支援法」成立	●JR福知山線脱線事故発生 ●日本プロ野球史上初のセ・パ交流戦が開幕
2006	●施設建設プロジェクト発足 ●施設建設事業計画 都へ提出 ●住民説明会開催 ●簡易受託受注事業（野菜販売）開始 ●ネットショップ「FUKUSAKU」販売開始・「耕す会」HP 開設	●「高齢者虐待防止・介護者支援法」成立 ●三位一体改革による補助負担金の削減	●ライブドアの堀江貴文社長逮捕 ●トリノ五輪荒川静香選手がアジア勢初の金メダル獲得 ●第1回WBCで日本が優勝
2007	●施設建設募金 2,300 万円達成 ●東京都より施設建設内示 ●工事着工 ●定期清掃（マンション清掃）業務開始 ● TBS ラジオ出演	●「障害者自立支援法」の見直し	●第 1 回東京マラソン開催 ●郵政民営化スタート
2008	●多機能型事業所「しごと場 大好き」竣工・開所 ●ジェラート製造・販売開始 ●第1回「花火鑑賞会」開催 ●「Cafe 大好き」モーニング開始 ●教育メール交換開始	●「介護従事者等の人材確保のための介護従事者等の処遇改善に関する法律」成立。 ● 06 年に国連総会で採択された「障害者の権利条約」発効。	●リーマン・ブラザースが経営破綻 ●東京・秋葉原で無差別殺傷事件発生 ●北京五輪開催、女子ソフトボール金メダル獲得
2009	●「掛け花竹飾り」カナダの雑貨店へ納品 ●第三者運営評価初受審	●「介護保険法」改正	●オバマ氏、第44代米大統領に就任 ●衆院選で民主党勝利、政権交代へ ●高速道路土日祝日1000円実施

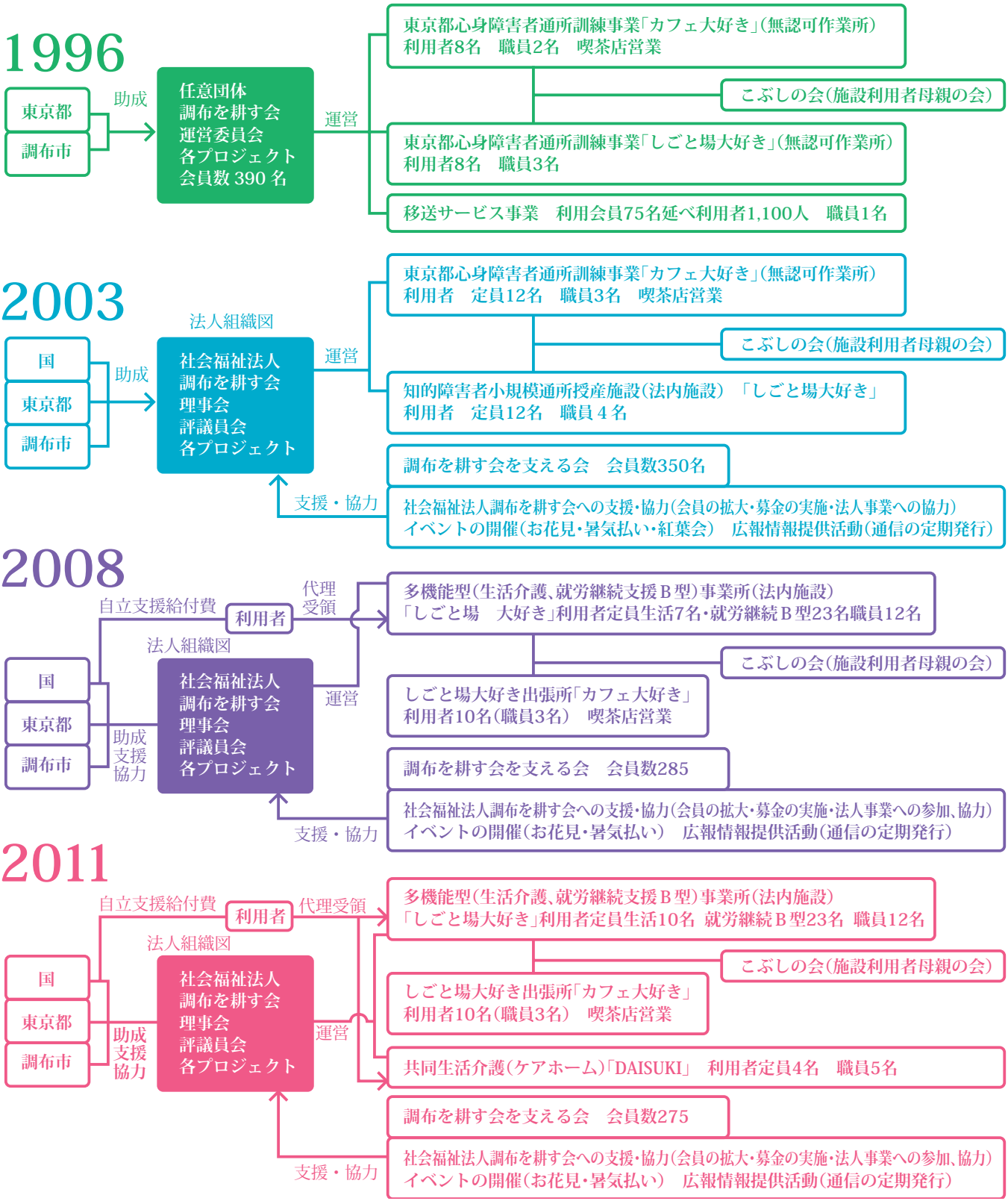
2010-2013

	耕す会・大好きの出来事	福祉の動き	世の中の動き
2010	●第２次グループホーム設立検討会開始 ●ジェラートカップ販売開始	●内閣府に「障がい者制度改革推進会議」設置 ●「障害者雇用促進法」一部改正法施行 ●「障害者自立支援法改正法」成立	●小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還 ●大相撲、野球賭博で混迷 ●バンクーバー五輪開催
2011	●「グループホームDAISUKI」開設 ●「Cafe 大好き」新店長就任	●「改正障害者基本法」成立 ●診療報酬改定案発表 ●介護報酬改定案発表	●東日本大震災発生 ●東京スカイツリー完成 ●サッカー女子W杯でなでしこJapan世界一
2012	●２０周年プロジェクト発足 法人ロゴ決定 ●「深大寺だるまかりんと」発売開始	●「障害者虐待防止法」施行	●衆院選挙で自民党圧勝、民主党大敗 ●ロンドン五輪開催、史上最多メダル38個獲得
2013	●いちごジェラート「ハッピーアイスクリーム」、【ザ・調布スタイルコンテスト】グランプリ受賞 ●「調布を耕す会・しごと場大好き」２０周年記念事業（北海道旅行、記念誌、記念Tシャツ）	●「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」となり施行 ●「障害者優先調達推進法」施行	●富士山世界遺産登録 ●全国的に記録的猛暑 高知県四万十で41℃記録

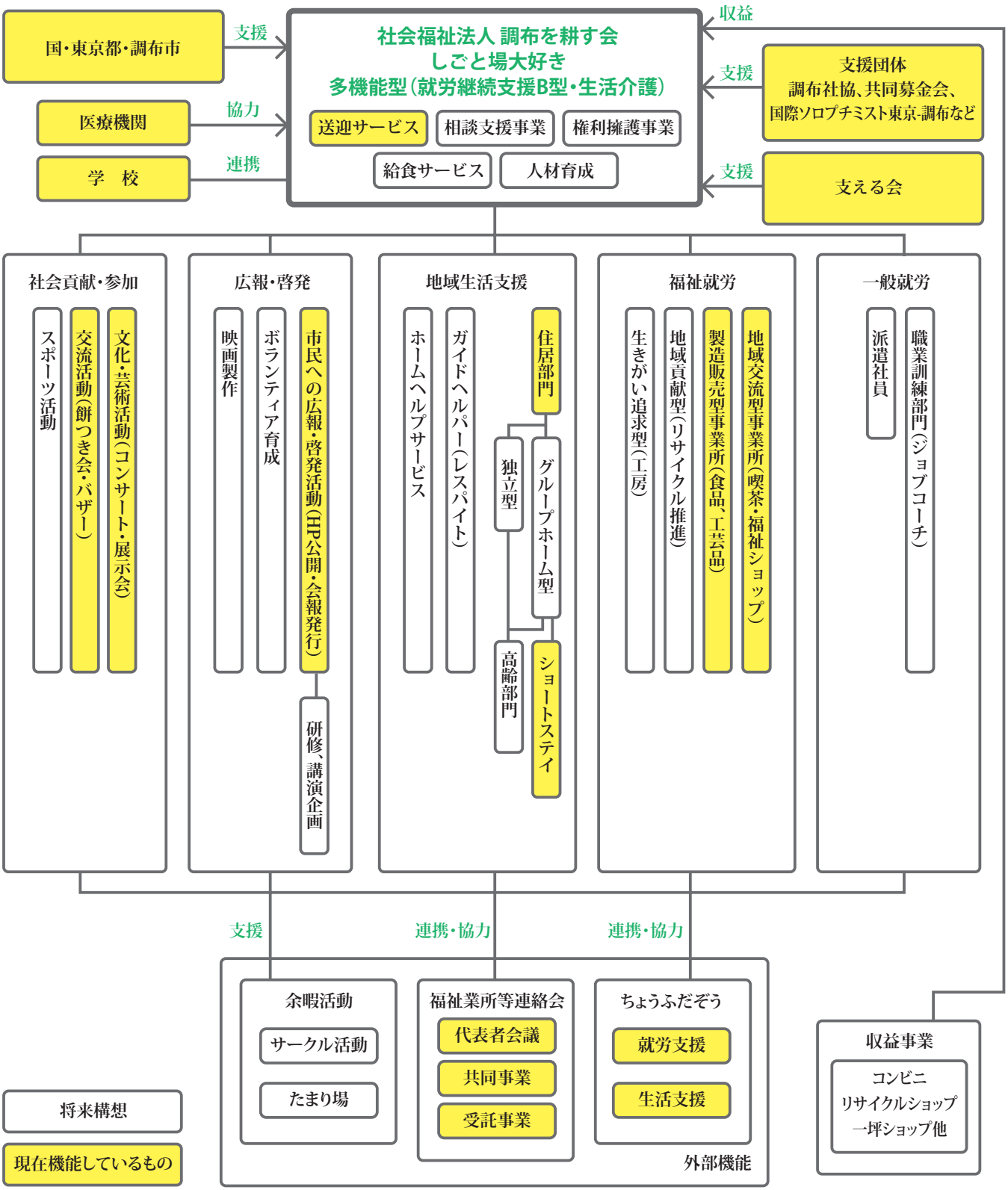


２０周年記念事業の北海道旅行

組織図の変遷


1996
東京都
調布市
助成
任意団体
調布を耕す会
運営委員会
各プロジェクト
会員数 390 名
運営
東京都心身障害者通所訓練事業「カフェ大好き」(無認可作業所)
利用者8名　職員2名　喫茶店営業
こぶしの会(施設利用者母親の会)
東京都心身障害者通所訓練事業「しごと場大好き」(無認可作業所)
利用者8名　職員3名
移送サービス事業　利用会員75名延べ利用者1,100人　職員1名
2003
法人組織図
国
東京都
調布市
助成
社会福祉法人
調布を耕す会
理事会
評議員会
各プロジェクト
運営
東京都心身障害者通所訓練事業「カフェ大好き」(無認可作業所)
利用者　定員12名　職員3名　喫茶店営業
こぶしの会(施設利用者母親の会)
知的障害者小規模通所授産施設(法内施設)　「しごと場大好き」
利用者　定員12名　職員４名
調布を耕す会を支える会　会員数350名
支援・協力
社会福祉法人調布を耕す会への支援・協力(会員の拡大・募金の実施・法人事業への協力)
イベントの開催(お花見・暑気払い・紅葉会)　広報情報提供活動(通信の定期発行)
2008
自立支援給付費
利用者
代理受領
法人組織図
国
東京都
調布市
助成
支援
協力
社会福祉法人
調布を耕す会
理事会
評議員会
各プロジェクト
運営
多機能型(生活介護、就労継続支援Ｂ型)事業所(法内施設)
「しごと場　大好き」利用者定員生活7名・就労継続Ｂ型23名職員12名
こぶしの会(施設利用者母親の会)
しごと場大好き出張所「カフェ大好き」
利用者10名(職員3名)　喫茶店営業
調布を耕す会を支える会　会員数285
支援・協力
社会福祉法人調布を耕す会への支援・協力(会員の拡大・募金の実施・法人事業への参加、協力)
イベントの開催(お花見・暑気払い)　広報情報提供活動(通信の定期発行)
2011
自立支援給付費
利用者
代理受領
法人組織図
国
東京都
調布市
助成
支援
協力
社会福祉法人
調布を耕す会
理事会
評議員会
各プロジェクト
運営
多機能型(生活介護、就労継続支援Ｂ型)事業所(法内施設)
「しごと場大好き」利用者定員生活10名　就労継続Ｂ型23名　職員12名
こぶしの会(施設利用者母親の会)
しごと場大好き出張所「カフェ大好き」
利用者10名(職員3名)　喫茶店営業
共同生活介護(ケアホーム)「DAISUKI」　利用者定員4名　職員5名
調布を耕す会を支える会　会員数275
支援・協力
社会福祉法人調布を耕す会への支援・協力(会員の拡大・募金の実施・法人事業への参加、協力)
イベントの開催(お花見・暑気払い)　広報情報提供活動(通信の定期発行)

将来構想図（社会相関図）


国・東京都・調布市
支援
医療機関
協力
学　校
連携
社会福祉法人 調布を耕す会
しごと場大好き
多機能型（就労継続支援B型・生活介護）
送迎サービス
相談支援事業
権利擁護事業
給食サービス
人材育成
収益
支援
支援団体
調布社協、共同募金会、
国際ソロプチミスト東京-調布など
支援
支える会
社会貢献・参加
スポーツ活動
交流活動（餅つき会・バザー）
文化・芸術活動（コンサート・展示会）
広報・啓発
映画製作
ボランティア育成
市民への広報・啓発活動（HP公開・会報発行）
研修、講演企画
地域生活支援
ホームヘルプサービス
ガイドヘルパー（レスパイト）
住居部門
独立型
グループホーム型
高齢部門
ショートステイ
福祉就労
生きがい追求型（工房）
地域貢献型（リサイクル推進）
製造販売型事業所（食品、工芸品）
地域交流型事業所（喫茶・福祉ショップ）
一般就労
派遣社員
職業訓練部門（ジョブコーチ）
支援
連携・協力
連携・協力
余暇活動
サークル活動
たまり場
福祉業所等連絡会
代表者会議
共同事業
受託事業
ちょうふだぞう
就労支援
生活支援
外部機能
収益事業
コンビニ
リサイクルショップ
一坪ショップ他
将来構想
現在機能しているもの

組紐

「しごと場大好き」開所に向けて、実績作りの活動をしている時に、旧中央公民館の「さくら祭」で出会ったのが組紐でした。初めてみる工芸品でしたが、組む作業には繰り返しの部分も多く、組み方も多様だったため「もしかすると出来るかも知れない」という思いで、作品展示されていた深見圭子先生に教えて頂く事をお願いしました。知識、経験、道具、活動場所と無い無い尽くしでしたが、気持ち良くお引き受け頂いて以来、21年間深見先生には変わらずご指導頂き、すっかりメンバーお気に入りの作業になっています。この間、四ツ、杉、松皮等の易しい組み方から江戸、すず菜、丸源氏、綾竹等複雑な組み方へ進化し、製品も多種多様になりました。組み台も7台から31台に増えています。変わらず抱える課題は、売り場と売上です。ブランド化等新しい取り組みが求められています。

めがねひも

大好きの定番商品。組み方や色、太さなど様々で、常時数十種類取り揃えています。

大好きホルダー

「大好き」が最初に世に出した製品です。開所式でみなさんに配りました。

結びストラップ

新作。金具を使わない、組みひも本来の良さを生かした作品が出来ないかと考え、伝統的な「菊結び」や「かごめ結び」を取り入れたストラップが完成しました。

干支色紙

メンバーの組んだ紐を深見先生やボランティアの方々が器用に加工してくださり、来年の干支の色紙が出来上がります。

イヤリング

最近の人気商品。金具はピアスに替えることができます。夏は浴衣に合わせて。冬は糸の暖かみを生かして洋服にも。

バッグハンガー

折りたたみのフックのようになっていて、テーブルの下にバッグが掛けられます。使わない時はキーホルダーとしても使える優れもの。

組紐の歴史は古く縄文の頃よりあったとされています。飛鳥天平の頃は、経巻(きょうかん)や仏具神具の紐として用いられ、時代が進むと共に、茶道具箱の紐や、貴族達の服装の紐に用いられるようになりました。戦国の時代になり、刀剣や甲冑などに使用されるようになりました。しかし、武家社会崩壊と共に、組み紐は帯締めや、羽織紐などに使用されるようになります。歴史と共に様々な使われ方をしてきた組紐。「大好き」では、めがねひも、帽子留め、ビーズを挟んでのネックレス、干支色紙など、アクセサリーや嗜好品に加工して販売しています。

陶芸

組紐と並んで、開所前から作業の柱にしようと考えていた陶芸。スタート前に職員が教室に通い基礎を学んでのチャレンジでした。当初は窯も無く、相模原にある陶芸店に頼み込んで、休眠していた窯を借り、現地で夜通し焼いたものでした。試行錯誤の連続で、大好きらしい焼物にはなっていきましたが、コンテストに応募しても認められず、販売品としても、十分な実績を得られませんでした。

一時期陶芸家にアドバイスを頂き、方向性が見えかけましたが、なかなか壁を越えられず、現在に至っています。２０１３年から新たに講師をお願いして、違った視点で新しい価値を生み出したいと考えています。

ランプシェード

中にランプを入れると、大小３つの小窓から光が漏れてとても幻想的。

茶香炉

上のお皿に好みの茶葉を乗せ、下の器にロウソクを入れて火をつけます。部屋中に香ばしい茶葉の香りが広がります。アロマオイルでもＯＫ。

掛け花花瓶

16年前、試作に試作を重ねて掛け花は誕生しました。今では一人のメンバーが「掛け花職人」として、毎週丹精込めて作っています。

風船型の器

この器は、型から石膏の手作りです。還元焼成ならではの味わいがあります。

シュガーポット

カフェ大好きのリクエストで作られた作品です。今やカフェの器はほとんどが大好き製です。

ガラス皿

大好きの人気商品。色鮮やかなガラスの部分は、ご近所の酒屋さんからお酒の空き瓶を分けていただき、それを手作業で細かく砕いたものを使用しています。

風船型

球状の型に粘土を少しずつちぎっては貼り、ちぎっては貼りという作業を繰り返し、半日かけてようやく完成します。

メモスタンド

素焼きした剣山に針金をぐるぐる巻いて、メモスタンドを作りました。写真立てとしても使えます。

ネコ皿

作者のメンバーのお宅で飼われているネコちゃんがモデルです。

紀元前から存在する陶器。日常的に使われて、誰にも親しみのある器や人形。メンバーの個性,感性が表現された、素朴で味わいのある作品作りを目指しています。

牛乳パック回収・公園清掃

しごと場大好きの作業では、93年の発足当時から、物を作る作業と外に出て身体を動かして働く受託作業の2本柱でやってきました。受託作業は現在７種類。スタートは、牛乳パック回収連絡会から受託した牛乳パック回収でした。週に1、2回市内のスーパー、市役所、地域センター等に設置してある回収ステーションを車で廻り、パックを集めてクリーンセンターに運ぶ仕事です。パックが重かったり、驚くような生ごみが捨ててあったりと苦労もありますが、車で市内全域を廻りながら拠点の方々との接点もあるこの仕事は、スタート時から現在でもメンバー一番人気の仕事です。98年度からは、ポピーの家、野いちご作業所（現ぴいす）が加わってリサイクル連絡会として、クリーンセンターからの受託という形で実施しています。

公園清掃は、調布市から1996年に受託して以来、西調布高速下の第6児童遊園を担当しています。マンションの清掃は2007年に民間の管理会社から受託して現在3カ所の清掃を請け負っています。どちらも責任ある仕事ですが、こうした仕事は社会貢献に繋がると考え、私たちにとってやりがいのある仕事として意気に感じて取り組んでいます。

メール交換・ポスティング

1999年から受託している調布市のごみカレンダー配布。歩いてポストに投函する仕事は、一軒の不配も許されない厳しい仕事ですが、全家庭の必需品と判っていて、メンバーはいつもやる気満々に取り組んでくれます。地域の方に掛けて頂く応援の声は何にも勝るエネルギーです。

2001年から始まったメール交換。始まりは、調布市公共施設管理公社（当時）から、業者でやっている図書館の本の運搬、大変な仕事だけど、作業所でやれますか？というお話しでした。車両は持ち出しで、図書館の本は重く、天候に関わらず1年を通して休む事が許されない市の仕事で、責任があってハードルの高い内容でした。しかし、私たちにとっては逃したくない大きなチャンスでした。作業所連絡会の仲間たちに協力を呼び掛けて、図書メールと施設メールの2事業を7つの事業所で曜日ごとに分担する形で受注にこぎつけました。現在「大好き」では、教育メールを加えた3つのメール交換を請負っています。どのメールも時間厳守で責任の重い仕事ですが、担当するメンバーは市の仕事をしているという誇りをもって生き生きと真摯に取り組んでくれています。

ジェラート・菓子製造

ジェラートの製造は2008年に大好きが現在の地に建物を建て、新たなスタートを切った際のシンボル的な作業として取り組んでいます。工芸品は、なかなか安定した収益になりにくいという経験から、消費する商品で、保存可能な物、そして、市内でオリジナリティーのあるもの。というコンセプトからジェラート「ハッピーアイスクリーム」が生まれました。勿論「大好き」らしく、無添加手作りで美味しいものを追及しています。スタートの時から熱望していた、地産地消のジェラートも、小野牧場さんや地元の生産者の方々のご協力を得て、2012年から調布ファーマーズシリーズとして売り出し、2013年5月に調布観光フェスティバル「第3回ザ・調布スタイルコンテスト」でグランプリを受賞しました。

菓子は、モルゲンベカライさん直伝のかぼちゃプリン、チョコチップクッキーの他、オリジナルのトマトクッキーや肉球のクッキー等大変好評で、生産が追いつかない事もしばしばです。

調理（仕込み）

上石原で間借りしていた頃は、場所が狭く、食事もミーティングも作業も同じ場所で活動していました。勿論専用の調理場も無く、お菓子作りには苦労しました。新施設が出来て念願の調理場が確保できました。カフェ大好きのカレー、スープ、シフォンケーキ、プリン等を存分に作っています。大好きらしく、ルーや出汁からしっかり手作りした自信作はお客様にも好評です。

メンバーは広い厨房で思う存分に腕を振るっています。始めた頃に比べると格段の進歩で、玉ねぎのスライスなどは見学の方が目を丸くする程の上達ぶりです。

リハビリ・社会体験活動

生産活動ばかりではなく、日常生活に関わる身辺の支援も大きな事業の柱です。特別支援学校卒業後、仕事中心の生活になるとみなさん運動量が減って段々と体重が増えていく傾向にあります。自分一人で意識的に必要な運動量を確保する事は、一般的にも難しいものです。そうした点からリハビリや日常の運動のフォローも重要な活動内容になります。また、朝の体操、社会体験活動の中でのプールや体育館での運動等も貴重な時間になっています。社会体験活動では、この他に公共交通機関を使っての買い物実践や調理実習等、地域で暮らすための力を培うプログラムを実施しています。

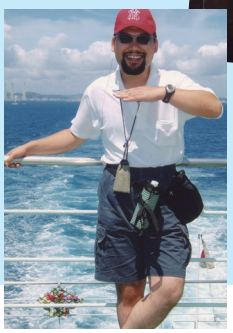
送迎

公共交通機関を利用して、徒歩で、或いは自転車で、と通勤手段は様々ですが、身体的、知的にハンディのある方々が毎日通うには、当然に送迎が必要なケースが出て来ます。欠かす事の出来ない事業所の機能です。現在しごと場大好きでは、11名の方が送迎サービスを利用していらっしゃいます。朝、夕２～３台の車両を使い、職員がドアtoドアで対応します。送迎の他にもメールの交換、牛乳パックの回収、買い出し、納品と、４台の所有車両は、毎日、調布の街を東奔西走しています。

夏合宿

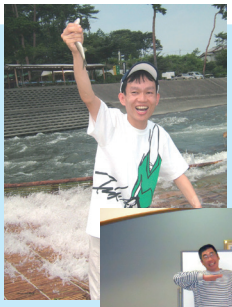
1992 年	栃木県　那須高原　那須ビレッジ	17 名
1993 年	長野県　木島平　木島平山荘	26 名
1994 年	福島県　裏磐梯・曾原糊　ホテル「クオレ」	29 名
1995 年	栃木県　鬼怒川・日光　休養ホーム「和楽荘」	34 名
1996 年	千葉県　元名海水浴場　安房もとな荘	28 名
1997 年	千葉県　元名海水浴場　安房もとな荘	26 名
1998 年	千葉県　元名海水浴場　安房もとな荘	28 名
1999 年	千葉県　元名海水浴場　安房もとな荘	26 名
2000 年	千葉県　元名海水浴場　安房もとな荘	23 名
2001 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	24 名
2002 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	22 名
2003 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	27 名
2004 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	28 名
2005 年	栃木県　喜連川町　ハートピアきつれ川	31 名
2006 年	千葉県　元名海水浴場　元名ビーチホテル	30 名
2007 年	千葉県　元名海水浴場　元名ビーチホテル	30 名
2008 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	31 名
2009 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	37 名
2010 年	千葉県　守谷海岸　かんぽの宿勝浦	42 名
2011 年	静岡県裾野市　水と緑の安らぎの宿「一の瀬」	45 名
2012 年	長野県　木島平　パノラマランド木島平	48 名
2013 年	20 周年記念北海道旅行	50 名

1999



2004

2005



2012

冬合宿

1995年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	34名
1996年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	21名
1997年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	24名
1998年	新潟県	塩沢町石打	ロッヂ「ワンダー・スリー」	23名
1999年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	23名
2000年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	23名
2001年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	23名
2002年	長野県	富士見高原	ペンション「太陽の子」	19名
2003年	長野県	富士見高原	いこいの村八ヶ岳	24名
2004年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	27名
2005年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	24名
2006年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	27名
2007年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	30名
2008年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	31名
2009年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	32名
2010年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	39名
2011年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	42名
2012年	長野県	富士見高原	ホテル「八峯苑 鹿の湯」	45名

1996

1997

2012

クリスマス

開設当初からメンバーが
大好きなイベントです。

2012

2004

1992

脚本を作って、練習をして、衣装をつけて、さながら舞台発表です。いったい誰に見せるんでしょう。大きなカブ、金のガチョウ、シンデレラ、ウォーターボーイズetc.時の流れで楽しみ方も変わって来ました。

SEASONS EVENT

季節感を大切にしたい、という思いから、開所以来、四季折々に様々なイベントを行って来ました。

春

梅見、花見、
大好き市、運動会

URESHI

夏

七夕、花火観賞会、
暑気払い、ボーナス飲み会

秋

月見会、
紅葉会、
バーベキュー

TANOSHI

冬

クリスマス会、忘年会、初詣、節分、餅つき
成人を祝う会

DAISUKI

大好き市

地域の方々に「大好き」を知っていただき繋がりを持ちたい。という思いで、開設当初からガレージバザーの形で、年に２回のペースで開催して来ました。現在は４月29日「昭和の日」と決めて年に１回開催しています。コンサートを中心にして屋台なども出し、日頃の活動内容を知って頂く機会として、誰でも参加出来るお祭りとなっています。

初期の頃は、ガレージで陶芸や組み紐の作品をみなさんに紹介して販売しながら、
体験コーナーや展示コーナーなどで日頃の活動内容等の紹介をしていました。

→1997

徐々にメンバー、来場者も増えてくる中で、バザーや屋台に加えて、講師の方を招いて
体験してもらう形が定着していました。餃子、おそば、キムチetc.。

→2005

限られたスペースでやれる事は限られていて、マンネリ化しつつあった「大好き市」。
新施設となって、コンサートが開けるようになって大きく変わって行きました。

→2009

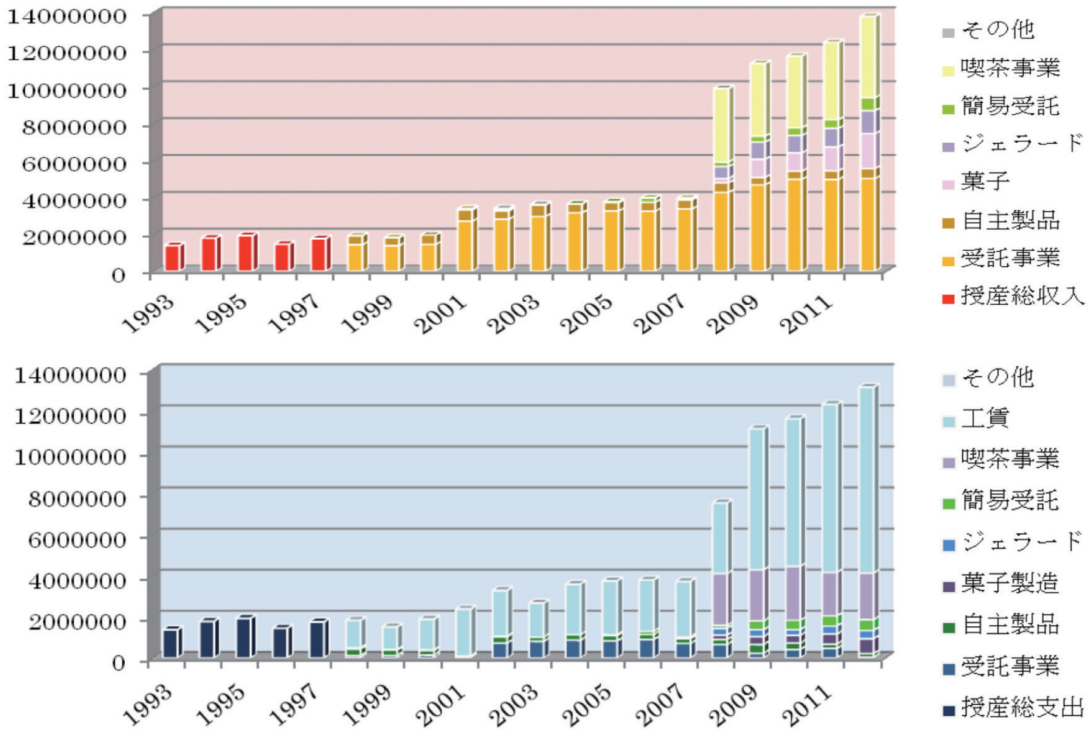
年々規模が大きくなって
パワーアップ。
今後の展開が楽しみです。

→2013

開設以来、或いはすぐ、
およそ20年から17年に亘って
使われてきた道具の数々、
今も変わらず私たちの日常を
支えてくれています。
大切に長く使う。大事な事だと思います。

DATA

しごと場大好き 授産データ



しごと場大好き 福祉事業 データ

グループホーム DAISUKI

設立経緯

現在の大家さん丸山様より、GHとして使いませんか、という物件のお話しを頂いたことから2010年６月に設立検討会が始まりました。耕す会の土壌としては、発足当初からグループホームは必要だと考えていて、遡ること６年前の2004年12月18日には、「GH設立検討委員会」が14名の委員で発足し、民間のアパートの利用や都営住宅を利用する形を模索することを決めて、すでにスタートしていた所でした。その時は、都営住宅物件の提供の情報を得たものの、入居するご家族の方々の物件に対する不安があり、実現には至らずに、2006年7月の検討会を最後に休止状態でした。

さて、丸山様より改修してのGH利用のお話を頂いて、2010年6月27日に改めて拡大検討委員会を開催して、2011年度開所を目指して準備していくこととなりました。

検討会は、月１回のペースで開催されました。（8/1第２回～3/6第10回、3/20・GH内覧会、4/1GH開所。）東京都との許認可関係、大家さんとの話合いや事業計画、入居者の人選・職員の人事・GHの内容、工事の進捗状況等、様々な懸案事項を審議していきました。

改修工事については、部分的な改修ではなく、内装は全体的に手を加えるものだったので、金額的にも大きく、都の補助を利用する形だった為に、設計士（緑陰工房）の依頼から入札を経て、工事業者の選定に至るまで、想像以上に労力を必要とするものでした。理事会を中心に準備を進めていき、入札、業者の選定を経て、年明けから工事に入ることとなりました。

ソフト面では、夜勤（宿直）に入る職員の方々も、新たに採用することになり、土日に日勤に入る方も含めて5人の方を採用して、研修を事業団のGH見学等、ちょうふだぞうさんにもご協力を頂いて準備を進めてきました。入居者は、GHを今現在必要だと思っていて、すぐにでも入居出来る方々という点と、メンバーさん同士の相性なども考え合わせて決まりました。入居者が決まり、職員の採用も済んで、改修工事の完成を経て2011年4月開所となりました。現在は、開始から3年目となりましたが、２代目GH担当の山口さん、世話人さん方の暖かい支援で、嬉しい事に「耕す会」らしい和やかな家庭となって来ています。

所長　内田 喜則

グループホーム DAISUKI

日常

グループホームが開設されて３年目に突入しました。グループホームでの日常生活は、とても賑やかで穏やかで温かくて、とにかく大切な時間になっていると思います。

メンバーさんは作業所から帰宅されると、それぞれ思い思いの時間を過ごされています。帰宅後すぐにリビングルームへ入られ、その日あった話しや様々な話をしながら過ごされていていることもあります。時には全員が一斉に話をしてしまい、誰が何の話をしているのか分からなくなることもあるくらいです。反対に帰宅後すぐにそのままお部屋へ行かれる方もいらっしゃいますが、それはそれでありなのだと思います。それぞれみなさんの生活のリズムができているのですから。最低限の決まりごとの中でメンバーさんが一緒に自由に生活する場所、それが「グループホームDAISUKI」なのです。

そうした共同生活の中でみんなが助け合いながら、時にはこれは「おせっかいになっているのでは？」と思わせられるくらいの「思いやる」場面にも出合います。助け合い暮らしていく、正に福祉という「支え合い」という言葉の原点を日々感じさせられます。それは身近な生活の場面だからこそなのだと思います。今後もみなさんにとって安心して穏やかに生活を送れる場所となる様に尽力していきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

GH担当　山口

メンバーの声

Aさん

●グループホームでの生活は楽しい ●山口さん(職員)の顔が好きです ●お風呂が楽しい ●ご飯がおいしい ●他のメンバーさんのことが大好きです

Iさん

●グループホームでの生活はもう少し慣れていけば色々と出来ていく。やらなきゃいけないことがある ●買い物へ行った時に無駄遣いをしない ●テレビ（相撲）を見ている時間が好き ●笑顔で帰ってくる。元気で帰ってくる ●帰って来たい、楽しい場所、大事な場所 ●みんなと仲良くできている ●これから先も楽しみ

Mさん

●グループホームの生活は慣れてきた ●趣味の物を部屋に置いていきたい ●長い間居られるのかどうかが心配 ●交通の便が良い ●他のメンバーさん、世話人さんとも慣れてきました ●居心地も寝心地も良いです

Kさん

●グループホーム生活は無理せずやっていきたい ●グループホーム生活はぼちぼち楽しい ●グループホームDAISUKIに新しい入居者さんを期待している ●山口さんとは同級生として、お互い仲良くしていきたい ●山口さんはやっぱり八嶋智人さんに似ている ●13年ぶりの一般就労に向けて精進している ●節約を継続していきたい。

これから

「大好き」も設立から20年が経過し、メンバー、親ともに徐々に高齢化してきています。これからは、女子も入れるグループホームの建設が急務だと考えています。（今のGH入居者が男性だけなので）。また、女子に限らず、まだ入居を希望している人は、潜在的には多くいらっしゃると思いますので、入居を希望する人が、入れるだけの器を準備していきたいと思っています。かといって、物件提供の話は、いつでもあるわけではありません。タイミングを逃さぬように、話しがあればすぐに取りかかれる様、DAISUKIでの経験を糧に、今の内から準備をしておきたいと考えています。誰もが暮らしたい、豊に愉快にゆうゆうと暮らせる「家」を目指して。

世話人さんからのメッセージ

●新井さん

皆さんが自宅からグループホームに帰って来ての日曜日の食事時はとても賑やかで楽しい雰囲気です。Kさんのテンション高い挨拶から始まって「いただきまーす」。皆さん気心も知れあって微笑ましい風景です。そして何より嬉しいことは「美味しい、美味しい」と言って食べて下さること。来週は何を作ろうかな？

●三宅さん

「しごと場大好き」20周年おめでとうございます。
最初の出だしはほんとうに大変なご苦労があったこととお察しいたします。今では立派に大好きとしての軌道も盤石なものが敷かれ、ますます良いアイデアと努力で他にはマネのできない、いいえどうぞ真似て欲しいような作業所になりつつあります。
一方で働かせて頂いているグループホームは今年３年目を迎えました。大好きの作業所程でないにしろ色々な事がありました。一番のネックは夕方から朝まで（皆さんが作業所に出かけるまで）世話人一人になるということです。一人ひとりのやりたいこと、行動パターンが皆さん違います。グループホームの皆さんは、３年目ともなるとお互いの行動、性質が分かりそれを尊重しながら自然に生活できています。
グループホームで楽しいことは何かという問いには、その中に自分もすっぽり入っている実感がある時だと思います。自分がドジな事をした時は皆さん心配して下さいます。そしてクリアした時は「良かったねー」と、私と一緒になって胸を撫で下ろしていただけたとき、これも何か連帯感が持てて嬉しく楽しく感じた時でした。まだまだ手探り状態でグループホームは運営されていますが、これもまた作っていく楽しさと受け止めています。今後とも宜しくお願い致します。

●桜井さん

DAISUKIのメンバーさんと関わって一年近くになります。いつも楽しく明るくを心掛けまた、朝食のメニュー作りも楽しみの一つです。勿論前日と被らないよう工夫しています。

●斉藤さん

大好きのグループホームは2F建て。一軒家の建物です。2Fは居室３部屋があり、1Fにも居室が１室あり他に台所兼リビングがあります。
そこにテーブルを置くと手狭なリビングに集まるメンバーさんたち４人の顔がより近い感じで私は気に入っています。全員が話し好きなので、日常的に活気がありとても賑やかです。
TVは常にON。ニュース、スポーツ、歌番組と皆さんのジャンルは広い。気になっていることを時間をかけて話したり、他愛ないことも気軽に話せたり聞いたりで、みんなが気持ちよく、明るく、楽しくなれることが私にとっても楽しいこと。みなさんに感謝しながら元気な世話人であり続けたいと思っています。

Cafe 大好き
Since 1996

1996 年 5 月15日 (水) 午後 1 時。「カフェ大好き」の歴史はスタートしました。
《地域に開かれた作業所をつくりたい》《自分たちが食べて美味しいものを提供したい》という想いで「しごと場大好き」の第 2 作業所としてオープン。以来、地域の方々に支えられながら17 年間営業を続けています。
「あたたかくて美味しい手づくり料理」と「メンバーの個性あふれる接客」がお店のスパイス。
これからも、地域に根ざした喫茶店をめざして、みんなで協力しながら楽しくお店を作っていきたいと思います。

大切にしている事

カフェの一日

皆で協力して行う朝の掃除からカフェ大好きの一日は始まります。開店準備、仕入れ、接客…。ひとりひとり「これは私が！」という得意仕事をもっています。そして閉店後は丁寧にお掃除。「掃除にはじまり掃除に終わる」。これが「大好き流」です。

手づくり

お客様をおもてなしするために、メニューはどれもひとつひとつ手づくりで提供しています。食器だって「しごと場大好き」メンバーによる手づくりです！

ちょっと愉快な接客

「今日は晴れるよ！」と、お天気の話ばかりしたり、「コーヒーだけ？」と、追加オーダーをねだったり(笑)。そんな「ちょっと愉快な接客」がカフェ大好きの一番大事なスパイス。これがないと「カフェ大好き」は成立しません。

こだわり The place with smiles and warmful dishes!

カフェ大好きではこだわりの食材を使って、自信を持っておいしいものをお客様に提供しています。
自家焙煎のコーヒー豆、低温長時間発酵のパン、肉厚ベーコン…。開店当初から、カフェ大好きの味を力強く支えてくださっているみなさん。この方々との出会いがカフェ大好きの「こだわり」のスタートでした。

飛行島（調布駅東口）

肉のはせ川（京王多摩川駅前）

モルゲンベカライ（武蔵野台駅北口）

メニューの変遷

1996～

最初に作ったメニューブックは、職員による手描きのものでした(色も一つ一つ丁寧に塗られています)。この手作り感が「カフェ大好き」が大事にしている雰囲気をよくあらわしています。もちろん商品も手作りで、飛行島さんの自家焙煎コーヒーをネルドリップで淹れる美味しいコーヒーが自慢でした。
メニューに入れることにこだわった肉のはせ川さんの手作りロースハムとモルゲンベカライさんの特注クロワッサンによるクロワッサンサンドは今でも語り継がれる名品です。

1999 ～

当時はモルゲンベカライさんの美味しい調理パンも置いていましたが、お客様からの「フードメニューを増やしてほしい」というご要望を受け、スパゲティーが導入されました。しめじとベーコンの和風スパゲティー、たらこスパゲティー、ナスとトマトのペペロンチーノの３種類。今は出していませんが、当時を知っている職員達はたまに懐かしく「食べたいね～」と言っています。

シフォンケーキ

カボチャのプリン

コーヒーゼリー

ペペロンチーノ

紅茶のパフェ

2006~

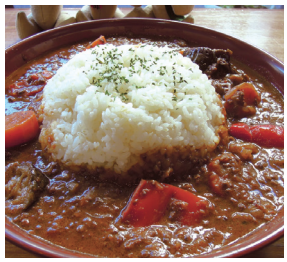
今も人気メニューとして君臨する「野菜カレー」は、2000年から導入。ルーから手作りのこのレシピはお世話になっているボランティアさんのご自慢レシピで、試食会でお客様から1番の支持を得てメニュー化となりました。そして、このコンペで第2位だった「チキンカレー」がこの年から新登場。カフェ大好き定番の2種類のカレーがここでそろいました。この頃から食器もどんどん自家製になっていき、現在はほとんどメイドイン「大好き」の食器です。

2012 ~

2008年に「HAPPY ICECREAM」、「モーニングメニュー」を導入、2010年には「クロックムッシュ」、2012年の「カレーチキンサンド」と新メニューも増えて、今のカフェ大好きのメニュー構成が確立されました。調布市産業振興課の企画もの「デカ盛りウォークラリー」にも参加して好評でした。
次の新メニューは……、なにかな?

大好きラテ

HAPPY ICECREAM


デカ盛り　野菜カレー

いちごフェア

大好きアラモード

ギャラリー

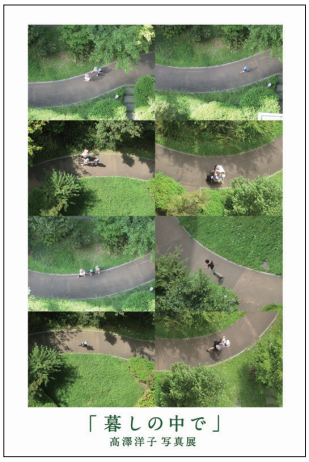
店内の壁面を一般開放し、市民の方が自由に作品発表していただける場所にしようと、カフェ大好きは「無料開放ギャラリー」の機能ももっています。これまで沢山の作家さんの作品が店内を賑やかにしてきてくれました。今でも月ごとに異なる作家さんの作品を紹介しています。ここでの展示をきっかけに、メンバーと一般市民の方との新しい交流が生まれたら……。
そんな願いをもっています。

20 周年写真展

絵画展

映画会

写真展



写真展

手作り雑貨

ビーズ展

銀製品

声

メンバーの声

①カフェ大好きの思い出

●食器を洗ってきれいに拭いた。ぞうきん床掃除をきれいにしました。●くまのシールをベタッ。カレーとなすと、パプリカ炒める。洗い物。 ●ここで実習したこと。笑ったりしてる。治くんと野球の話とかしてる。 ●洗い物をしたりだとか、食器を拭いたりだとか、アイスコーヒーを作ったりだとか、アイスカフェオレの氷入れたり、牛乳パックの片付け作業。閉店後に残りの洗い物をしたり、食器を拭いたり、ゴミ片付け作業。燃えるゴミ、燃えないゴミ。あとは恒例のひざサポーターをつけて床掃除。お客様の品物運び。食器をカウンターのところに持っていく。 ●チラシ配り。あとはレジ打ち。いろいろ作るのが楽しい。BLTとか。 ●カレーだね。 ●洗うの。高校生来ます。楽しいねえ。 ●接客と、カレーの煮返し。あとは洗い物をしました。 ●みんなで記念セールを、お客様がたくさん来る中協力してやったことが、一番記憶に残っていることです。 ●しごと場大好きより、接客業の方がやりやすい。ホール係と、ドリンク係の仕事が非常にやりやすい。集客力を上げて、稼ぐ力でお客さんを喜ばせる仕事をしていきたい。 ●開店したばっかりの時は、まだ全然お客様がいらっしゃらなかったけど、ちょっとずつ来るようになったことがうれしかった。 ●洗い物楽しい。和気あいあいかな。 ●最初入った時に、仕込みをカフェでやっていたのが楽しかった。

②イチオシメニュー

●スープセット ●チキンカレー ●本日の日替わりケーキセット(飲み物付き)。オレンジシフォンケーキの香りがいい。オレンジの皮のところ。甘酸っぱいっていうか、口当たりがいい。 ●クロックムッシュ。チーズがいいからね～。あのチーズが一番好き。 ●スープセット ●カスタードプリン ●チキンカレー ●カレーチキンサンド～ ●ロイヤルミルクティーのジェラート。自分は抹茶が一番好きだが、ここのはロイヤルミルクティーが一番好き。 ●スープセット ●大好きアラモード ●デカ盛り。今はフルーツとジェラート。

③カフェ大好きのいいところ

●いらっしゃいませ、シフォンケーキお待ちどうさま、運びました。 ●スープセットを頼んだ時に、自分で塩こしょう出来るのがいいと思う。塩はサラダに少々かけるのがいい。 ●接客。いらっしゃいませとか、ごゆっくりどうぞとか。 ●美味しい匂いがする～ ●木が多くて、ナチュラルっていうか、落ち着けるところかなって思います。 ●貴重な戦力として、少しずつレベルが上がっていけば。花を咲かせるような一人前の仕事人として頑張っていきたい。働くところの環境が一番のところは、お客さんを喜ばせるための仕事を、人気者として、腕を磨くために、しっかりと対応していきたい。接客業としての躍動を披露していきたい。お客様の数を世界記録になるように頑張っていきたい。 ●コップ、お皿が手作り。ワッフルコーンいっぱい焼くよ!

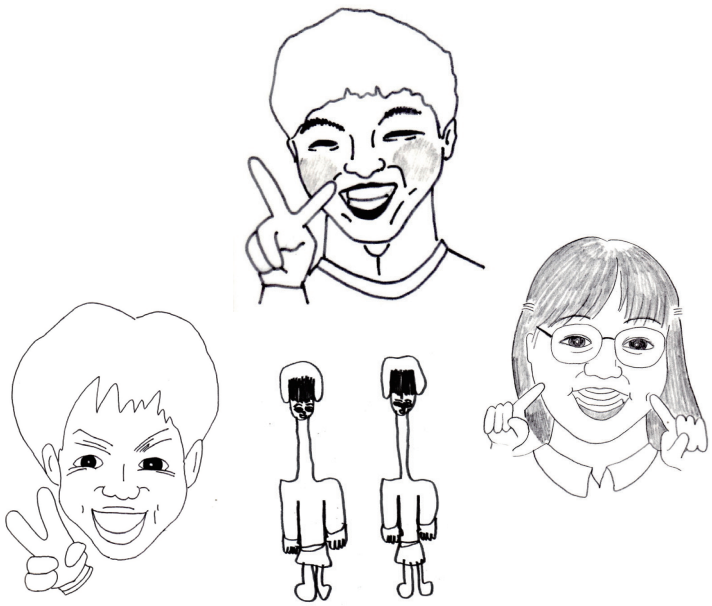
お客様の声

●<輝く瞳に会いたくて!>その店は、京王多摩川駅前の路地を一本入ったところにある。調布市多摩川に移り住み約20年、妻からお店のことを聞いて「カフェ大好き」を知ったのはごく最近だった。何気なく入ったお店だったが、清潔で明るい店内もさることながらそこで働く若い人たちの生き生きとした姿が特に印象的だった。一生懸命任された仕事をやり、何より仲間同士のチームワークの良さがほほえましい。そして、彼らの「輝くひとみ」を見るにつけ、自分も少しばかり勇気を貰っている。

●20周年おめでとうございます。
いつも野菜たっぷりのカレーをおいしく頂き、このカレーの大ファンです!!
これからもみなさんで力を合わせて更に素敵なお店になっていくことを祈ります。

●カフェ大好きさんとの馴れ初めは７年くらい前(?)の福祉まつりでした。おいしそうなコーヒーの香りに誘われて見つけた屋台でしたが、スープもうまい、シフォンもうまい、こりゃなんだ、ということでカフェを探し出し通うようになりました。独断を承知で申せば、ここのシフォンとかぼちゃプリンは他店で食べる気がなくなるくらいです。
明るく開放的なカフェではたらくスタッフさんたちはみなさんユニークで、でもそのユニークさがごく当たり前のものになっているのが、このカフェのもう一つの魅力です。そんな大らかさに甘えて、私ども家族(大人２名、子供２名)もいつもにぎやかに過ごさせていただいてます。楽しい気持ちでうちに帰れる。そんなデザート付きのカフェです。
このカフェが「特別ではなくて、当たり前のカフェであるような、そんな日が早く来ますように!

●～20周年おめでとうございます～たぶん開店当初からお世話になっています。なぜなら、私たちも結婚20年ですので、調布に住んで20年になるわけなのです。
「カフェ大好き」さんは不思議なお店です。店員さんはときにはお客さんより多いし、皆さん年齢不詳です。手頃で美味しいお茶とデザート、そして何よりもいつもみなさんがにこにこと〝ごきげん〟なのです。
ごきげんはお金では買えません。どうぞこれからも末永く。



会報の変遷

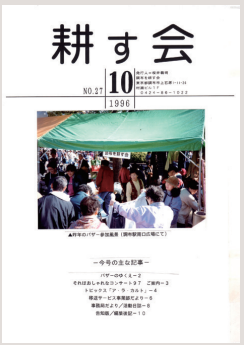
何度もピンチがありましたが、開所以来20年、遅れることなく隔月で発行し続けている会報「耕す会」「大好き」。私たちの小さな誇りです。誌面作りは、ワープロ、切り張りで借物の印刷機から、メールで原稿を集めてパソコン編集、自前の印刷機へと変わりました。また、B5からA4へとサイズが変わり、題字や表紙構成も変更されて、現在は両誌面が１本になって左右から読める変わったスタイルになっています。内容を振り返ると、辿ってきた20年が見えて来ます。新たな取り組みへのチャレンジ、断念した作業、新規事業のスタート、人の移り変わり、喜び悲しみ、朗報訃報、実に多くの人に関わって頂いた事を実感します。

1992年6月
耕す会　創刊

1993年6月
大好き　創刊

1995年8月
大好き　14号

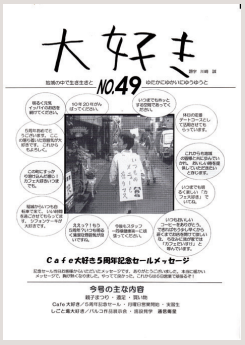
1995年10月
耕す会　21号



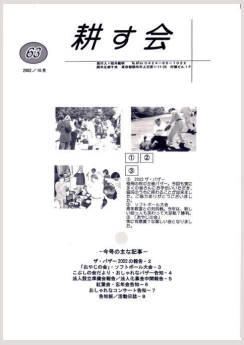
1996年10月
耕す会　27号

1996年12月
大好き　22号

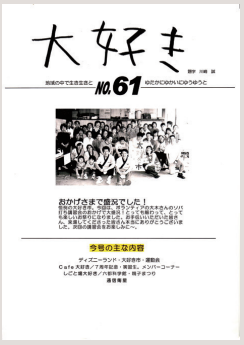
1997年6月
大好き　25号



2001年6月
大好き　49号



2002年10月
耕す会　63号



2003年6月
大好き　61号

2005年8月
大好き　74号

2008年4月
耕す会　97号

2008年12月
耕す会　100号

2010年12月
大好き　106号

2013年4月
大好き　120号

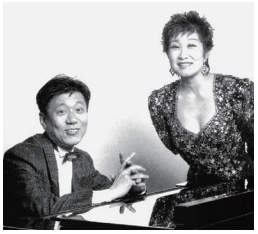
それはおしゃれなコンサート
1994 ～ 2013

たまには都心の本格的なコンサートに出掛けたい。でも、距離や価格やマナー等、色々とハードルが高くて行きにくい。そこで、ちょっとおしゃれをして、上質の音楽を気軽に楽しめるコンサートを調布でやろう。と始めたコンサート。プロジェクトチームで企画、運営しながら協力券頒布では、毎回多くの方々にご尽力いただいて、ご来場のみなさんには好評を博しています。お陰様で、会の歴史と共に開催を重ね、20回を数えました。延べ来場者は1万人を突破しています。

第1回　1994
東京マリンバトリオ
（マリンバ）

第2回　1995
小室等（ギター・歌）

第3回　1996
ボニージャックス
（コーラス）


第4回　1997
亀山法男　亀山勝子
（ピアノ・唄）

第5回　1998
ヤドランカ（ギター・唄）

第６回　1999
しゅうさえこ（歌）

第７回　2000
中澤桂（オペラ）

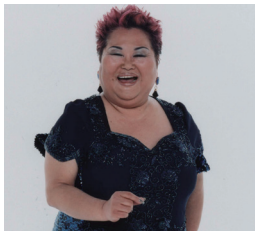
第８回　2001
村井国夫（歌）

第９回　2002
林隆三（歌）

第10回　2003
川井郁子（ヴァイオリン）

第11回　2004
東京マリンバトリオ
（マリンバ）

第12回　2005
高橋竹童（三味線）


第13回　2006
亀渕友香＆VOJA
（ゴスペル）

第14回　2007
SINSKE（マリンバ）

第15回　2008
溝口肇（チェロ）

第16回　2009
藤原道山（尺八）

第17回　2010
桑山哲也
（ボタンアコーディオン）

第18回　2011
西村由紀江（ピアノ）

第19回　2012
AUNJクラシックオーケストラ
(邦楽器)

第20回　2013
ESCOLTA
（ヴォーカルグループ）

餅つき会

大好き開所の初年度の冬から始まった餅つき会。様々なイベントの中でも、もっとも関係者が楽しみにしていて盛り上がる催しです。全国各地の銘酒や手作りの惣菜が並ぶ中、「ヨイショー」の掛け声とともに、関係者総出で老若男女入り乱れて次々につき上がるお餅。現在は18臼を数えます。垣根のない参加自由の雰囲気もあって、移転後は一層賑やかになり、地域の方々の参加も増えています。

花火観賞会

新施設の設計段階から、屋上には何も置かずに、地域の方々をお招きして、調布名物花火大会の観賞会を開催する事を計画していました。焼きそば、焼き鳥の屋台やドリンク、自家製ジェラード、クッキー等を提供して屋台でのんびり花火を観賞して頂く計画は実現しました。５年の間には花火大会の規模の縮小や中止があったり、高層マンションが建ったり、ガラスのフェンスが壊れたりと色々な事がありましたが、それらを経て観賞会のスタイルも定着してきました。ありがたい事に地域の方のリピート率も高まっています。

バザー

スタートは「大好き」開設資金捻出の為のバザーでした。市内各所で行われているバザー、お母さん方にもご協力頂いて、参加が可能な催しにはとにかく参加をしていました。1年で10回を超える時もありました。開設以降も運営状況に余裕はなく、1997年3月からは調布駅南口で主催バザーを年2回開く事になりました。

チラシを撒いて回収に行くスタイルは独自のスタイルで初めの頃からやっていましたが、同時に、様々な企業からの物品提供にも大変お世話になりました。

→2004

バザーに出してしまうと高価な物でも安く売られてしまって、頂いた方に申し訳ない。と「こぶしの会」のみなさんが自主的に始めて下さった「おしゃれなバザー」1999年にカフェ大好きで始まって以来 、毎年勤労感謝の日に開かれています。すっかり地域に根付いて、毎年開店前には行列が出来る程の人気ぶりです。

京王線の地下化工事に伴って調布駅南口広場が使えなくなり2004年10月から多摩川住宅中央広場、調布市役所前を併用して開催するようになりました。

→2006

「耕す会」の代名詞ともいえる主催バザー。近年は、調布市役所前の開催が定例になり、ジャングルバザーと銘うってダンスや楽器演奏、太鼓などの出演やワークショップ等も軒をつらね、販売するだけでなく、地域の皆さんに楽しんで頂く、エンターテイメント的な要素のある大きい催しとなって来ています。

→2012

支える人

初期の頃から、様々な立場で関わって下さっているみなさん。目立たない所で、長年関わって下さる方々が居て初めて私たちの事業は成り立っています。そんなみなさんにこれまでの関わりを振り返っていただきました。

深見圭子先生

大好き開所前の準備段階から、ボランティアでメンバー、職員に組紐を教え続けて下さっている先生です。現在では、評議員として会の運営にもご協力下さっています。

大変だったり、辛かったりした事は無いですね、メンバーからいつも元気をもらってます。やっていて良かったなあと思う事は、ここのメンバーと知り合わなければ、障碍の人たちと関わる機会の無い人生だったと思うから、良い機会が貰えたと思っています。それから、メンバーが、挑戦の意欲を持って新しい組み方を教えて欲しいと言ってくれる時は、すごく嬉しくてやりがいを感じます。当初は、売る場所が無くてなかなか売上が上がらず、続けられるかどうかが一番心配だったけど、みんなよくここまで続けてくれたと思う。これからは、その人にしかできない作品というのをブランドのようにして、出していきたいと思っています。

水野晴久さん（モルゲンベカライ）

モルゲンベカライさんには、カフェ大好きの開店時からパンを提供頂いています。知る人ぞ知る人気店で、毎日忙しい中、オーナーの水野さんには、パンの提供に止まらず、クッキー製法などもご教授いただいている上に、会員にもなっていただきご支援いただいています。

僕は利潤を求めて仕事していないので。飛び込みで来て、話を聞いた時に一緒にやりたいと思っただけで、始めるのに悩む必要は無かった。「大好き」はこっちからすればよく頑張ったなあ。すごいなあという印象。カフェ大好きは、色んな喫茶店が無くなって行く中で、17年間も続いてよくやってるなと思う。お互いに体力が続く限り頑張りましょう。

天田進二さん

耕す会の発足当時からの会員で、イベントの際の出店の手伝い、支える会の運営等、長く会を支えて下さっています。

きっかけは、手話サークルたまの会のメンバーの弘美さんや大脇さんが関わっている所ということで、イベント要員で手伝った事。新施設が出来て、西調布から布田に移れて、建物も立派になって良かったなあと思う。これまで、色々と手伝ってきたけど、楽しいお手伝いばかりで、難しい事は職員に任せてます。（笑）これからも今までと同じ様に関わらせてもらいます。

寺島光子さん

耕す会発足当初から会員となり、イベントの手伝い、会の運営に携わり、支える会では広報担当として会報作成を担って下さっています。

関わるきっかけは、オミちゃんとマンネンの結婚を祝おう会や「でんごんばコンサート」でした。関わる中で、みんなの夢がだんだん大きくなって、新しい建物も出来て良かったねと感じています。法人が出来た事が大きかったと思うけど、それに至る過程で、運営委員会何かでけんけんごうごう白熱した議論があって、夢に向かって語り合っている様子が印象に残っています。これからも、流れる雲のように関わって行かれればと思います。

「調布を耕す会を支える会」代表安藤光子さん

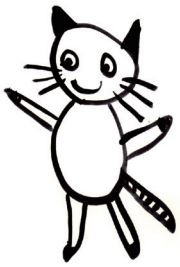
本当に何もない所からの出発で、マンネンさんの情熱に賭けてみようという気持ちでした。何とか作業所が開設して、耕す会も多くの人が協力して下さって段々に発展していきました。振り返ると無我夢中で、楽しみながら作って行こうとみんなで同じ方向を向いて燃えていました。10年経って耕す会を法人化する際に、それまで会を支えていた会員制度が法人としては認められないという事で、「支える会」を作り、後援会的位置付けで会員を維持して法人を支える事になって現在に至っています。「支える会」の在り方は難しく、常に自問自答しながらですが、発足以来の本当に暖かい皆様のご支援に後押しされて何とかやって来られたというのが実感です。今後とも応援して下さる方がある限り、協力し続けたいと思っています。

「こぶしの会」代表 原郁子さん

「こぶしの会」は通所メンバーの母親の会で、作業所設立と同時に発足しました。名前の由来は、こぶしが春に早く咲く花なので、一日も早く咲き誇って欲しいという願いと、こぶしの音が手のこぶしに繋がるという事で、皆で一致団結して支えて行こうという思いからでした。7年ぐらい、財政支援ということで、バザーなどのお手伝いをしながら、アートフラワーを作って行事の際に販売していました。現在は、会員も倍以上になって、新メンバーの歓迎会、らっきょう漬け、成人を祝う会、バザーのチラシ配り、値段付け、販売他イベント実施と参加協力に取り組んでいます。また、主催バザーとして「おしゃれなバザー」を毎年カフェ大好きで行って好評を博しています。

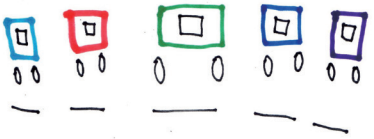
今後は、引き続き作業所を支援して行くのは勿論ですが、子どもの将来にかかわる見学、勉強会等、学ぶ機会を作って行きたいと考えています。

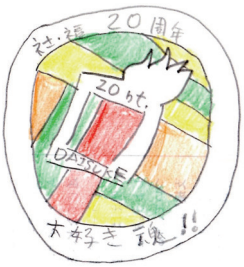
メンバーの夢



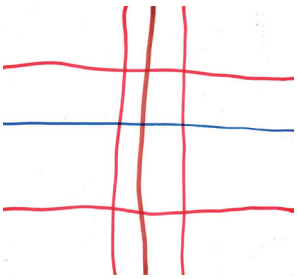
①行ってみたい場所は？

●北海道のお寿司が食べたい　●東南アジア。マーライオンに会いたい。シンガポールです。 ●豊島区の池袋サンシャインシティ。水族館。アムラクストヨタ。西武池袋本店スポーツ売場。 ●松本です。お墓参り。信州です。 ●外国かな。飛行機。綺麗な海（に入りたい）。 ●ＮＨＫとかテレビの生放送を見に行く。鳥取砂丘。京都の嵐山。世界遺産。小笠原諸島。 ●飛行機乗りたい。温泉。泊まり。かっちゃんと一緒に寝る。 ●ハワイアンズでプールで遊ぶ。豪華なとこに行きたい。車やバスや豪華客船に乗って旅行したい。 ●カリフォルニアのディズニーランド。とにかく世界各地のディズニーランド。ミッキーのお家に他の人がいない状態で行ってみたい。ミッキーがどうやって寝ているか、どうやってご飯を食べているかを見てみたい。ＡＫＢの握手会に行ってみたい。 ●富士山に登りたい。てっぺんに登りたい。　●ハワイ。沖縄。南国に行ってみたい。台湾。インドネシア。中国。 ●ツタヤ。１２月７日（土）ガメラ。　●北関東の草津温泉に行ってみたいと思います。伊豆、熱川温泉。 ●東京スカイツリー。　●韓国とか中国とか台湾とかスペイン。マドリード、関西、アルゼンチン。イタリア。オーストラリア。一番はアルゼンチン。サッカーとかバレーとか見に行きたい。 ●名古屋。味噌カツが美味しそう。ディズニーランド。 ●フランス。本場のフランスパンを作って食べてみたい。イギリス。ハリーポッターの撮影を見たい。 ●沖縄。沖縄の海。・遊園地。温泉。 ●フランス。お買いものしてみたい。カバンとか。お土産とか。パリ。エッフェル塔の上に行ってみたい。家族と一緒に船の旅。 ●オオゼキ





②やってみたい事は？



●大きな家を持ってコンバットヒーローもののソフビ（人形）を集める。 ●政栄くんはいっぱい好き　●和服の着付け　●福祉まつりのダンス。クリスマス会プレゼント。大掃除と納会カラオケを歌う。それはおしゃれなコンサート、終わったら打ち上げ。そして成人を祝う会。餅つき会やる、ペッタンをつく。冬合宿でスキーをすべる。 ●僕は冒険してます。僕はジグソーパズルをやってます。 ●仮面ライダーになる。 ●温泉。あったかいの。 ●車に乗って牛乳パック回収。ドラマを見たい。 ●結婚するための花嫁修業をしたい。 ●プロのサッカー選手とサッカーをやりたい。（ポジションは）ゴールキーパー。 ●人の助けになる事。 ●朝とか帰りのミーティングの司会をやってみたい。 ●苦手な事を克服したい。好き嫌いを無くすとか。作ることが好きなので、それにチャレンジしてみたい。絵本、手作りの小物とか、カバンなんかも作ってみたい。 ●料理を作って食べる。包丁で野菜を切ったり、自在にやったり。キャンプ場でバーベキューをやりたい。 ●めざましＴＶの収録を見に行きたい。 ●ダンボ。メリーゴーランド。新幹線にも乗る。 ●自転車に乗れるようになりたい。パソコンでメールできるようになりたい。 ●住みやすい家に家族で暮らしてみたい。近くに外食が出来る場所があったり、階段がない家。 ●木曜のメールやってみたいなーと思って。 ●自分がデザインした物ができるといい。洋服とか。 ●組みひも　●レストランのイメージ的にする接客業を維持して心掛ける事。 ●車　がやりたいです

だいすき

③やってみたい仕事は？

●クッキー作り。 ●くみひも・カフェ。食器洗う・オペレーター。通販とかの受付 ●三鷹市下連雀の藤和印刷株式会社。紙で新聞やチラシ、ポスターを作る。 ●漆。お椀です。 ●カフェ。 ●役者。ドラマとか映画で学生の役（をやりたい）。 ●牛乳パックやりたい。 ●営業で調布中を回りたい。 ●ディズニーランドのキャスト。 ●便利屋（何でも屋）みたいな仕事。 ●京王線（の運転手） ●車の洗車。テーブル拭き。 ●お菓子作りとかチャレンジしてみたい。パウンドケーキとかデコレーションケーキが作ってみたい。 ●レストランで料理を持っていくお仕事をやってみたい。レストランのお掃除をしたり。 ●球場とか相撲場所の場内アナウンスをしてみたい。相撲が終わった後に座布団を片づける係。 ●前にたい焼き屋やろうと思って、できなかったのでやってみたい。 ●ＴＶに出て司会をやってみたい。朝のニュース（キャスター）がいいな～と思って。この前、出たでしょ。 ●クッキーを作りたい。 ●しごと場のボランティア活動をチャレンジのつもり積極的に頑張るつもりで行動していきたい。

④欲しい物は？

●シャイダーの顔したシャンゼリオン。 ●北海道でアイス　●それは秘密です　●DVDドラマ「大都会パート3」78,79。第1巻～12巻まで。 ●猫の絵のジグソーパズルです。 ●一万曲入るウォークマン。 ●アイス。 ●北川景子の写真集。 ●ディズニーランドの年間パスポート。象、、ラクダ。 ●お金。 ●ＣＤチェンジャーとラジオの付いたＣＤラジカセ。 ●おっきなＴＶ．ＴＶ台。 ●エレベーターのあるお家。 ●お菓子。おもちゃ。絵本。 ●洋服。紺。 ●二人での新生活は観葉植物が欲しい。 ●車　がほしいです

⑤その他？

●レストランのウェイトレス。
●セーラームーンになりたい。
　ＡＫＢに入りたい。体操の選手。
●宝くじが大当たりしたらいい。
●床そうじ

⑥しごと場のみんなでやってみたい事？行ってみたい場所？　など

●ディズニーランド　●行ってみたいのは海外。グアム。安くていい。韓国とか。やってみたいのはリレー。みんなで24時間テレビみたいに。車いすの人も走る用の車いすで。 ●群馬県の館林市花山町つつじが岡公園。コスモスがあります。 ●大好きが一生あってほしい。大好きの車にベンツが欲しい。あとオープンカー。大好きの屋上、駐車場にテントを張ってお泊り会。畑作業がしたい。カレーセット（たまねぎ・にんじん・じゃがいも）を作りたい。 ●沖縄。富士山。 ●マンションぐらいでっかいＧＨがほしい。 ●みんなと外国に行きたい。オランダあたりとか。あったかい国がいいんじゃないかと思う。 ●みんなでゲーム（黒ひげ危機一髪））をやってみたい。 ●しごと場に芸能人に来てもらいたい。　●スキューバーダイビング。海に潜って魚を観たい。 ●女の子のＧＨがあったらいい。カフェを人がいっぱい通る所に引っ越したい。つつじヶ丘とか仙川とか。そこでもっと売り上げをあげたい。 ●プール。 ●三浦大知さんにしごと場に来てもらって、一緒に踊りたい。一緒に勉強したい。 ●ダーツ大会。（ゲームセンターの）エアホッケーとかやりたい。野球（ストラックアウト）やりたい。クレーンゲーム。ガンシューティングゲーム。

事業・施設概要

事業種別		多機能型「就労継続支援B型/生活介護」				
主たる事業所	事業所名	しごと場大好き				
	住所	〒182-0024　東京都調布市布田3-20-1	電話番号	042-486-1022	fax	042-486-0232
出張所	事業所名	カフェ大好き				
	住所	〒182-0025　東京都調布市多摩川5-7-4	電話番号・fax	042-481-3933		
設置	設置主体	社会福祉法人調布を耕す会				
	代表者	理事長　齋藤 豊				
	施設長	亀田 良一郎				
	開設年月日	平成20年4月1日	指定年月日	平成20年4月1日		
	利用者定員	定員30名　就労継続B型30名　生活介護10名　現員・就労継続B型25名　生活介護13名				

■ 生活介護

（1）日常生活上の支援を提供
ADLが未自立な利用者に対して、介護など日常生活上の支援を通して、身体能力、日常生活能力の維持・向上に努める。
（2）創作活動の機会の提供
創作活動を通して、身体能力、日常生活能力の維持・向上を図る。
（3）簡易受託受注事業
野菜の仕入れ販売、下請け軽作業などを通して地域への障害者理解の促進と働くことへの意欲を喚起する。
（4）その他の事業
①社会体験活動（公共交通機関利用の実践／買い物実践）
②地域に根ざした活動（地域向けバザー／道路清掃）
③調理実習（自立した生活に向けた取り組み）

■ 就労継続支援B型

（1）受託事業
地域貢献に繋がる調布市からの委託事業を通して、仕事に対する誇りと責任を培う（牛乳パック回収、公園清掃、メール交換、ポスティング）
（2）自主製品事業
創作活動とその販売を通して、地域への障害者理解の促進と働くことへの意欲を喚起する（陶芸、組みひも）
（3）喫茶事業
駅前商店街での喫茶店、福祉ショップ営業（カフェ大好き）での仕事を通して一般就労に必要な知識、能力を養い、適性にあった職場への就労を促進する。
（4）食品加工事業
食品製造、加工、販売を通しての一般就労に必要な知識、能力を養い、適性にあった職場への就労を促進する。（カフェ大好きでの販売食品、菓子の製造、加工）（アイスクリームの製造、加工、販売）

■ カフェ大好き

（1）喫茶事業（喫茶店の営業）
（2）福祉ショップ事業
　地域の作業所の自主製品を広く市民に紹介し、積極的に販売します。
（3）地域交流事業（展覧会/講演会等）
　Cafeのスペースを有効に活用し展覧会等の文化的な活動を主催します。
●営業時間：火曜日～土曜日 9：30～18：00　日曜日10：00～17：30
●定休日：月曜日・祝日

■グループホームDAISUKI

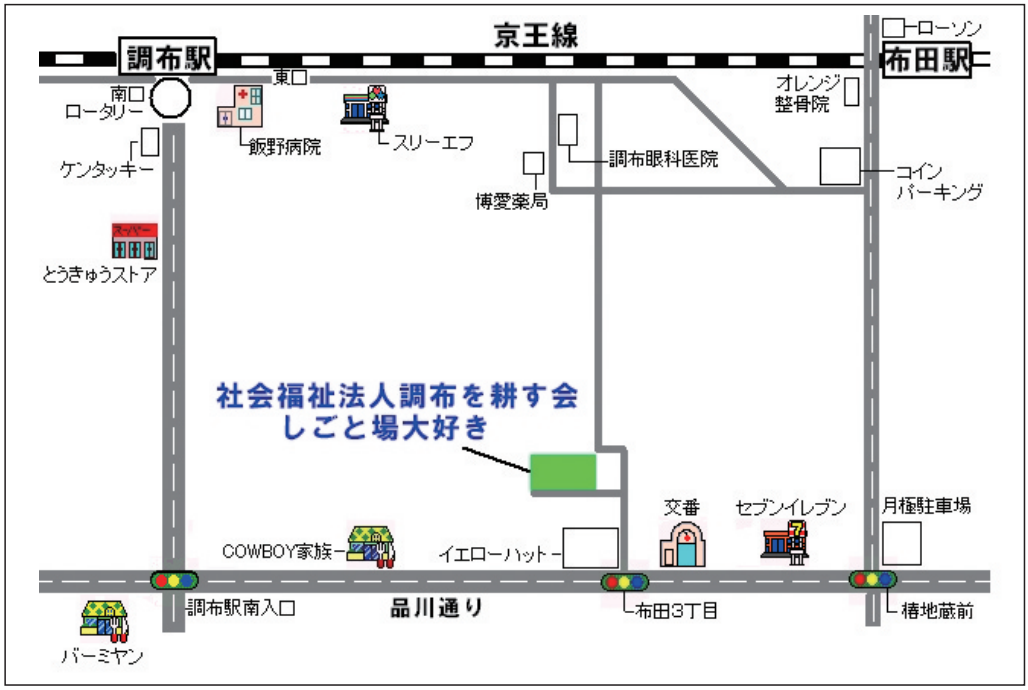
2011年4月開設
共同生活介護（ケアホーム）　利用者4名
調布市布田１-14-2

《利用・見学のご希望》
お申し込みは何れの場合もしごと場大好きへ直接お電話下さい。
電話：042-486-1022
URL：http://www.tagayasukai.com/
メール：tagayasukaijp@yahoo.co.jp

MAP

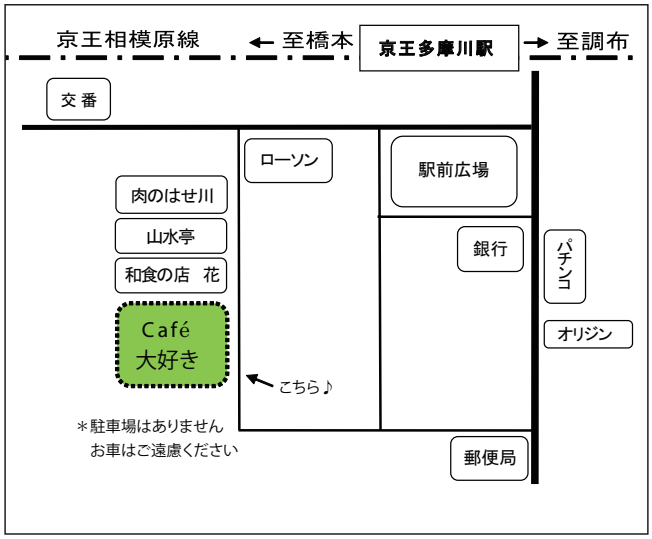
しごと場大好き

東京都調布市布田 3-20-1
電話：042-486-1022　fax：042-486-0232



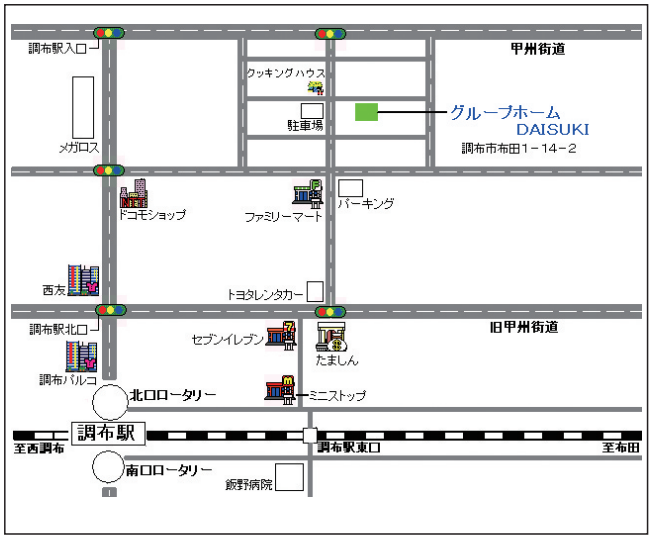
カフェ大好き

東京都調布市多摩川 5-7-4　京王多摩川 88 ビル 1F
電話・fax：042-481-3933



グループホーム DAISUKI

東京都調布市布田 1-14-2
電話・fax：042-480-0231



社会福祉法人 調布を耕す会 しごと場大好き 20周年記念誌

発行日：2013年10月5日
発行者：社会福祉法人調布を耕す会
企画編集：20周年プロジェクト記念誌編集委員会／亀田良一郎、後藤朋子、田村冴未、松原中代
デザイン：(有)パンデコングラフィックス
撮影：普後　均
印刷：(有)エルウィン